



獨逸國普通商法

二
畢

大藏省
翻譯課



初 逸國普通商法

二

114
A2703
2

大
省
翻譯課

第二百四十七條

一ノ株券会社他ノ株券会社ト合併スルニ因

テ解散ヲ為ス時ハ^{第二百十五條}左ノ規則ヲ準用ス可シ

第一款 解散シタル会社ハ其債主ニ負債ヲ清了シヌハ保証

ヲ立ツル迄ハ其財産ヲ他ノ会社ト區別シテ管理
ス可シ

第二款 解散シタル会社ハ其財産ヲ他ノ会社ト區別シテ管

理スル以内ハ從來ノ裁判所管轄タルベシ但シ財産
ノ管理ハ他ノ会社ヨリ執行スヘシ

第三款 他ノ会社ノ支配人ハ石區別セシ解散シタル会社ノ

財産ヲ管理セル克ニ就テハ債主ニ對シテ自ラ其責
ニ任ス可シ

第四款 会社ヲ解散シタルヲ^{簿籍}簿籍簿へ登記スル為メ

商法^{第六百七十五條}第六百七十五條ノ上稟ス可シ若シ否ラザル時ハ罰金ヲ



第五款

解散シタル会社ハ其債主ヲ召集スル廣告ヲ第四百

三條ヲ考看為サズ或ハ之ヲシテハ其限延スルモ

妨ケ無シトス

但シ解散シタル会社ト他ノ会社トノ財産ヲ合併ス

ルトハ解散シタル会社ノ財産ヲ各株主ニ配賦シ得

可キ時第四百四十五條ニ至テ始テ之ヲ為シ得可

第四百十八條

各株主ニ其皆納セシ放銀ノ内幾分ヲ返還シ

或ヒ其未納放銀ヲ納ム可キ義務ヲ放除スルトハ唯株主

會ノ決議ニ準拠シテ処分スベシ

前頭元金ヲ返還シ放銀ノ義務ヲ放除スルトハ会社解散ノ際

其財産ヲ賦スル為メニ制定セル成規第四百四十三條及第四百四十五條ヲ考看ス

河ヲ実行シタル上之ヲ行フ可シ

支配人ノ中ニテ此成規ニ違反スル処分ヲ為ス者ハ債主ニ對

シテ自ラ其責ニ任ス可シ

第五章

補則

第二百四十九條

左ノ場合ニ於テハ監督人及ヒ支配人ハ三ヶ

月以内ノ禁獄ヲ課ス

第一款 監督人及ヒ支配人会社ノ條約ヲ商業簡明簿ニ登記

スル際元金ノ全額及ヒ拂濟シ現額ヲ故ラニ謬昏セ

ル時

第二款 監督人自己ノ關係ノ為メニ

或ヒ決議ニ必需ナル該負欠席スル時

第三款 監督人及ヒ支配人会社ノ財産ノ現状ニ就テ其報知

及ヒ混合又ハ株主總會ニ於テノ告知ヲ為スニ方リ
テ会社ニ関スル事情ヲ詳悉シテガヲ偽ラシメ之ヲ開
陳シ或ハ陰秘スル時

第二第三款ノ場合ニ於テ輕宥スベキ情実アルコトヲ認ム時ハ
一千「タ」レ「ル」凡ノ我金貨七百ノ罰金ヲ以テ贖フコトヲ聽
ルス。

第二百四十九條 若シ会社ノ財産既ニ負債ヲ償還シ得ベキヲ
ザル狀況ヲ生スルニ方リ監督人第二百四十條ノ規則ニ違反
シ之ヲ裁判所一上稟セザル時ハ三ヶ月以内ノ禁獄ヲ課ス
若シ監督人故ラニ上稟ヲ懈リシニ非ザル事由ヲ証スル時ハ
此罰ヲ免ルヲ得可シ

第三編

暗社及ヒ共益為メ各箇ノ高價事務ニ従事スル仲間ノ事

第一章

暗社ノ事

第二百五十條 何人ヲ論セス他人ノ商業ニ放銀シテ其損益ヲ
共ニケル為メニ連合セル時ハ即チ之レヲ暗社ト云フ
該社ノ條約ハ證昏或ヒハ其他ノ方法ヲ以テ徴スルヲ要セ
ズ

第二百五十一條 主業者ハ自己ノ高標ヲ以テ其業ヲ經營ス
ルニ非ズ 可シ

主業者其高標ニ暗社員ノ加入ヲ以テ高社ニ類似スル意ヲ表
セル高標ヲ附スルヲ許サズ若シ之ヲ犯シバ罰金ヲ課ス
第二百五十二條 主業者ハ暗社員ヲ差出シタル放銀ノ所有
主トシベシ

暗社員ハ條約上ノ額ヲ踰越スル放銀ヲ差出シ及ヒ損害ヨリ

シテ減セシ故銀ノ更ニ補償スルノ義務ヲ負荷セズ

第二百五十三條

暗社及ハ一歳ノ決算表ヲ繕本ニテ示スヲ

要シ及ヒ諸帳簿先ニ証合類ヲ者園シテ談本ノ正否ヲ勘査ス

ルノ權アリ

高法裁判所ニ於テハ暗社負ヨリノ上訴ニ因リ切實ナル支務

アリト認ル時ハ何時ナリ且主業者ヲシテ決算表及ヒ其地ノ

明細各ヲ暗社負ニ示サシメ并ニ諸帳簿及ヒ証合類ヲ差出サ

シムルヲ命シ得ベシ

第二百五十四條

暗社負ノ損益配賦額ニ付テ当初一定ノ法ヲ

立テザルヨリシテ他日紛議ヲ生ゼシ時ハ裁判官ノ判断ヲ以

テ之ヲ定メ或ハ餘義無キ場合ニ於テハ其事柄ニ熟練ノ者ヲ

シテ参決セシム可シ

第二百五十五條

毎歳尾ニ迄リ利益ト損失トヲ計較シ而シテ

暗社負ニ属ス可キ利益ヲ之ニ交付ス可シ

暗社負損失ニ對シテハ唯其既ニ皆済セシ或ハ未済ノ故銀額

ヲ以テ其割前ヲ負荷スレバ可ナリ○暗社負ハ既ニ領収セシ益

金ヲ後來生セシ損失ノ為メニ再ヒ返付スルノ義務無シ但シ

其放銀ノ原額損失ニ因テ減少シテアル以内ハ其後ノ益金ヲ

以テ此補償ニ充ツ可シ

益金ヲ以テ放銀ニ増加スルハ暗社負ヨリ請ハザレバ之ヲ

為スヲ得ズ但シ此ニ就テ別段ノ約定アル時ハ此限ニアラ

ズ

第二百五十六條

商業ノ事務ニ就キ社外ノ人ニ對シテハ獨主

業者ノニ権理及ヒ義務ヲ有ス

第二百五十七條

主業者ノ商標ニ暗社負ノ姓名ヲ加フ可カラ

ス若シ之ヲ犯セバ其暗社負債主ニ對シテ自ラ責ニ任ス可

第二百五十八條 若シ主業者倒産スル時ハ暗社負其放銀ノ損失割前額ヲ超過スル以内ハ其過金ヲ倒産債主ノ償付ニ均シク要求スルノ権理アリ

暗社負其放銀ノ未ク皆消セザレ時ハ損失割前ヲ補償ス可キノ金額ヲ倒産負債高ノ内へ払ヒ入ル可シ

第二百五十九條 主業者ノ財産ニ倒産ヲ公告セル日ヨリ前其一歳中於テ主業者ト暗社負トノ契約ニ因テ会社ノ管係ヲ解散シテアル時ハ倒産債主暗社負ニ對シ之ニ返付セラレタル放銀ヲ倒産負債高ノ内へ返弁スルヲ要シ得ヘシ但シ暗社負ハ會社解散ノ際ニ於テ会社ノ管係ヨリシテ生セシ主業者ノ償付ヲ倒産債主ノ如ク要求シ得ヘキ権理ヲ之ガ為メニ損傷セラル、ト有ラス暗社他ノ事故ヨリシ解散スル時ハ

第二百六十一條 第一項第二項第三項及第五項ヲ參看ス可シ 此成規ヲ準用スルヲ得ヘカ
ラズ

前掲ノ期限内ニ於テ若シ暗社負へ会社ノ管係ヲ解散セスシテ其放銀ヲ返付シテアル時ハ則チ前ノ成規ヲ準用ス可シ

主業者若シ前掲ノ期限内ニ於テ暗社負へ既ニ醸生シテアル損失割前ノ全額或ヒハ幾分ヲ免除セリト雖此免除ハ亦同シク倒産負債者ニ對シテ効無シ

若シ暗社負ニ於テ会社解散ヲ為シ或ヒハ放銀ノ返付或ヒハ損失割前ノ免除ヲ受ク後ニ造テ倒産ノ源ヲ醸生セシ或チ証スル時ハ此条ノ成規ヲ準用スルヲ得ス

第二百六十條 若シ一箇ノ暗社負ヨリ或ヒハ全負ノ同意ヲ以テ暗社ノ現狀ヲ廣告セハ之ガ社外ノ人ノ為メニ法律上ノ効

アルヤ否ハ民法ノ成規ニ遵テ判決ス可シ

第二百六十一條 暗社ハ左件ニ因テ解散ス

第一款 主業者ノ遺物相続人ヲ以テ暗社ヲ繼續スベキトテ

條約ヲ以テ豫定セザル時ニ於テ主業者ノ死去セ

ル時

第二款 主業者ニ法律上ヨリ沼産ノ禁ヲ言渡セシ時

第三款 主業者或ハ暗社負ノ財産ニ倒産ノ公告ヲ言ヒ

渡サレシ時

第四款 社中不和ノ時

第五款 会社ノ營業期終了ニ迫リ会社ヨリ之ヲ申立ツル時

但シ該銀限ヲ黙過スル時ハ無定期ノ條約トシテ看

做ス

第六款 無定期ノ会社トシテ條約ヲ決定シテアリシ時ニ於

テ主業者或ハ暗社負ノ一方ヨリ其廢止ヲ上稟ス
ル時

社負ノ生存中会社ヲ保続ス可キ條約ハ無定期ノモノトシテ
看做ス

若シ別段ノ契約アラザル時ハ無定期ノ会社トシテ定メタル

條約ヲ廢止スルノ上稟ヲ遲クモ其營業年限經過ノ六ヶ

月前ニ為ス可シ

第二百六十二條 暗社ハ其營業期限經過ノ前或ハ無定期ノ

條約アル時ハ若シ切實ナル事故アル時ハ豫先ノ廢止上稟

ヲ為サズシテコレヲ解散スルヲ得ベシ○若シ之ヲ拒ム者

アラバ則チ裁判官其意見ヲ以テ前掲ノ事故受理スベキヤ

否ノ判決ヲ為ス可シ

第二百六十三條 第二百六十六條ノ成規ヲ暗社負ノ相對債主ノ

ノ相對債主ノ

為メニ亦準用ス可シ

第二百六十四條 若シ暗社負死去シ或ハ之ニ法律上ヨリ沼産

ノ禁ヲ言渡サレシ時ト雖コレニ因テ暗社ヲ解散スルニ及

パス

第二百六十五條 暗社解散ノ後主業者ハ暗社負トノ管係ヲ結

了シ而シテ該負ヨリノ負債ハ現貨ヲ以テ返弁ス可

シ

主業者ハ解散ノ後ニ過リ猶決了セザル事務ノ纏結ヲ管理ス

可シ

第二章

共益ノ為ノ各個ノ商賣事務ニ従事スル仲間ノ

事

第二百六十六條 各自共益ノ為ノ一箇或ハ數箇ノ商賣事務ニ

結合スルヲハ證昏或ハ其他ノ方法ヲ以テ証スルヲ要セズ

第二百六十七條 若シ別段ノ契約アラサレバ各仲間共ニ企

シ事ハ平均ノ放銀ヲ為スヲ以テ義務トスベシ

第二百六十八條 仲間中ノ利益及ヒ損失ヲ配賦スルヲニ就テ

別ニ契約無レバ各自ノ放銀ニ利子ヲ払ヒ而シテ利益及ヒ損

失ハ分頭ニ付スヘシ

第二百六十九條 仲間ノ一負他人ト條約セシ事務ニ就テハ獨

リ該負之ニ對シテ其権理及ヒ義務ヲ有ス

前頭ノ事ヲ仲間ノ一負其餘ノ仲間ノ委任又ハ名前ヲ以テ執

行シ或ハ総仲間共同ニ又ハ其總委員ヲ以テ執行スル時ハ總

仲間他人ニ對シテ各自ニ其権理及ヒ義務ヲ有ス

第二百七十條 共同セシ事務完結ノ後ニ於テ之ヲ管理セシ仲

間ノ一莫ハ證昏ヲ照準シテ決算ヲ為ス可シ

該管理者又残務ヲ總結ス可シ

第四編

商賣事務ノ事

第一章

總テ商賣事務ノ事

第一節

商賣事務ノ要旨

第二百七十一條 商賣事務トハ即チ左ニ開列スル件々ヲ云フ
ナリ

第一款 貨物其他移動スベキ物、國債証券、株券及ヒ其他貿易

市場ニ流通スル諸証券ヲ賣捌ク為メニ之ヲ買入レ

或ハ他ノ方法ヲ以テ買入ル、下但シ貨物及ヒ其他

移動ス可キ物ハ自然ノ終ニテ或ハ製作ノ上賣捌キ

得可キモノ、區別アルヲ無シ

第二款 第一款ニ開載セシ物品ノ賣捌キヲ受負フ事但シ右

物品ハ受負人此目的ノ為メニ買入シモノナリ

第三款 報銀ヲ受ケテ保險ヲ受負フ事

第四款 旅客及ヒ物品ヲ海運スル受負ヒノ事

第二百七十二條 右ノ外左ニ開列セシ事務モ若シ之ヲ本業ト

シテ經紀スル時ハ亦以テ商賣事務トナス

第一款 他人ノ為メニ移動ス可キ物品ヲ製作スル受負ヒノ

事但シ受負人ノ工業職工ノ区域ヲ超越スル事ニ限

ル可シ

第二款 說、舖及ヒ為、換屋ノ事務

第三款 問屋第三百六十九條運輸世話人及ヒ運輸人ノ事務

并ニ人ヲ送送スル為メニ設立セシ会社ノ事務

第四款 他人ノ為メニ高賣事務ヲ結約シ及ヒ周施スル

但シ商賣世話人ノ公務ハ限外トス

第五款 出版事務其他書籍及ヒ美術的物呂ヲ販賣スルノ事

務并ニ印刷共工業職工ノ域ヲ超越スル以内ハノ

事務

商人前掲外ノ事務ヲ以テ成立セシ商業ノ經紀中ニ前掲内ノ

事務ヲ營ムル亦高賣支務トナス

第二百七十三條 商人渾テ商業ノ經紀中ニ屬スル各個ノ事務

ハ高賣支務トシテ看做ス

此成規ハ賣捌ク為メニ仕入レシ債物其他移動スベキ物及ヒ

諸証券類ヲ本業トシテ賣捌ク事并ニ器具材料及ヒ其工業ヲ

施スニ方リ直ニ用ヒ或ハ変体シテ用ヒ得ル移動ス可キ物品

ヲ仕入レル事ニ就テ特ニ管涉ス

職工ヨリ為ス販賣其職業ノ功方ヨリシテ成ル以内ハ高賣支

務トシテ看做サス

第二百七十四條 商人ノ結シ條約其性質不分明ナルモ商業ノ

經紀中ニ屬スルモノトシテ看做ス

商人ノ差入レシ借受証昏ハ商業ヲ經紀スル為メニ為セシモ

ノトシテ此ニ就テ抗ス可キ事ヲ徵セザル以内ハ看做ス

第二百七十五條 不動産ニ就テノ條約ハ一トシテ商業事務

ト為サズ

第二百七十六條 商業事務ノ性質及ヒ真正ナルハ人ノ其官

職或ハ族籍ノ為メ又ハ工業警察或ヒ其他石類似ノ原則ヨ

リシテ商業ヲ經紀シ及ヒ高賣事務ヲ結約スルヲ禁制セラレ

テアル莫ニ因状シテ之ヲ断定スルヲ得ベカラズ

第二百七十七條 條約人ノ一方ニ於テ其支務賣事務ニ屬シテ

了ル條約上ノ事務ニ際シテ此編ノ成規中ニ條約人ノ一方ニ
於テ其事務高賣賣務ニ屬シテアル條約人ニノニ管係スル特
別ノ成規アラザル以内ハ此編ノ成規ヲ双方ノ條約人ノ為メ
ニ準用ス可シ第百八十一條ノニ注共ニ第百八十九條第
三百十及ニ第百十三
条ヲ參看ス可シ

第二章

高賣事務ノ通規

第二百七十八條 裁判官高賣賣務ヲ判決スルニ際シテハ條約
人ノ意趣ヲ覆明ス可ク而シテ申立ノ言語上ノ意ニ拘泥スル
ヲ無カル可シ

第二百七十九條 談判セシ或ハ放過セシ事又點過セシ事ト
云第百二十三條ノ旨趣及ニ作用ノ為メニハ貿易上ニ適
當ナル習慣法ヲ用ユ可シ

第二百八十條 若シ二人或ハ數人ニテ他人ト一ノ事務即チ
他人ノ方ニ於テハ之ガ高賣賣務ニ屬スル所ノモノニ就テ共
同シテ其義務ヲ負荷シテアル時ハ各人獨自負債主トシテ認
ム可シ但シ債主ト別段ノ契約アラザル以内ニ限ルベシ

第二百八十一條 高賣賣務ニ此法律書中獨自ノ義務ヲ掲載
シテアル種々ノ場合ニ於テ獨自ノ負債主ハ割前及ニ保証權
ヲ以テ抗抵スルノ權アラズ

此成規ハ高賣事務上ヨリ釀生シ負債主ノ負債ニ保證タル
者或ハ保証スルノニ高賣事務ニ屬スル時ニモ亦準用
ス可シ

第二百八十二條 何人ヲ論セス自己ノ方ニ於テハ高賣事務ニ
屬スル所ノ事務ヲ他人ノ為メニ管理スルヲ以テ義務ト為
ス時ハ止シク商人ノ管理ヲ為ス可シ

第二百八十三條 何人ヲ論セス損失ノ弁償ヲ要スル者ハ發生シテアル損害及ヒ失ヒタル利益ノ弁償ヲ要スルヲ得可シ
第二百八十四條 違約罰金ノ額ハ別ニ限制アルヲ無シ而シテ利益ノ二倍ヲ超過スルヲ得可シ

義務ヲ負荷スル者明徴アラサル以上ハ違約罰金ヲ拂フニ因テ其義務ヲ完了スルヲ免ルノ推理アラズ

違約罰金ノ契約明徴アラザル以上ハ之ヲ以テ該金額ヲ超過シタル損失ノ弁償金ニ付テノ推理ヲ消了スルヲ得可カラズ
第二百八十五條 貸手金ハ若シ契約或ヒハ其土地ノ習慣法アル時ノニ唯之ヲ償金ニ充ツルヲ得可シ

該金若シ別段ノ契約或ハ其土地ノ習慣法アラザル時ハ之ヲ返付シ或ハ計算中ニ加入ス可シ

第二百八十六條 過度ノ損害特ニ原價ノ半額以上ノ損害發作

スル氏之ガ為メニ其商賣事務ヲ停止スルヲ得可カラズ

第二百八十七條 商賣事務 就テノ正シキ利子時ニ緩期ノ利子額ハ一ヶ年百ニ付テ六分タル可シ

然テ此法律昏中ニ於テ利子ノ額ヲ明言セスシテ利子ヲ払フ可キ義務ヲ掲載セシ場合ニ於テハ其利子額一ヶ年百ニ付テ六分ナリト推知ス可シ

第二百八十八條 何人ヲ問ハス自己ノ方ニ於テハ商賣事務タル或ル事務上ヨリシテ他人ハ貸金有ル者ハ其返還ヲ督促セシ日ヨリ起算シテ利子ヲ要スルノ推理アリ但シ該人民法ニ遵テ返還ヲ督促セザル以前既ニ利子ヲ要スル推理ヲ有セザリシ時ニ限ル可シ

唯計算昏ヲ送致セルノミニテハ貸金ノ返還ヲ督促スルモノトシテハ做スヲ得ズ

第二百八十九條 **總**テ商人中双方トモ其商賣支務ヨリ生シシ
・ 貸金ニ付テハ別段ノ契約ヲ為サズ或ハ其返還ヲ督促セス
・ 彼此共ニ其金額ヲ拂フ可キ日ヨリ起算シテ利子ヲ要スル權
理アリ

第二百九十條 商人其經紀スル商業中ノ事務ヲ他ノ商人或ハ
・ 商人ニアラザル人ノ為メニ管理シ或ヒハ之ニ取扱スル者ハ
・ 別段ノ契約ヲ為サズ其手数料ヲ要シ得可シ而シテ此他物
・ 品ヲ預リ置ク事ニ係ラハ則チ又蔵敷賃ヲ其土地ノ慣習法ニ
・ 遵テ要シ得可シ

前頭ノ事ヲ擔理セシ商人ノ貸金豫支代金及ヒ其他ノ雜費
・ ハ其払渡セシ日ヨリ起算シテ利子ヲ計算ニ加入スルヲ
得ベシ

第二百九十一條 若シ商人他ノ商人ト回曆取引キヲ為シテア

ル時ハ其決算ニ因テ生セシ過剩金ノ金額(縱令從來ノ利子ヲ
・ 此額内ニ組入レテアル也)ニ付テ決算ヲ為セシ日ヨリ利子ヲ
・ 要スルノ權理アリ

決算ハ双方相對ニテ別段ノ契約ヲラハル以内ハ一箇年ニ一
・ 回之ヲ為スベシ

第二百九十二條 商賣事務ニ付テノ利子額ハ一ヶ年百ニ付テ
・ 六分迄ハ契約ヲ為シ得ルト強氏之ヨリ超過スル額ハ右列ノ
・ 法律ニ於テ認許シテアラハル以内ハ之ヲ契約スルヲ禁
ズ

商人ノ借受セシ金額及ヒ商賣事務ヨリシテ生セシ負債ニ付
・ テモ亦一箇年百ニ付テ六分以上ノ利子ヲ契約スルヲ得
可カラズ

第二百九十三條 商賣支務ニ付テノ利子ハ其總會計ノ負額元

金額ヲ超越スルコトヲ得可シ

第二百九十四條 計算書ヲ一旦確實ナリトシテ承諾セシモ他

日其計算書中ノ誤謬及ヒ詐偽ヲ徵スルコトヲ得可シ

第二百九十五條 借受証書及ヒ領收証書ノ謄本トナルヘキ効

ハ期限ノ經過ニ管係スルコト無し

第二百九十六條 領收証書ヲ持卷セシモノハ其松金ヲ領收ス

ルコトヲ委任セラレタル者トシテ看做ス但シ松主ニ於テ此委

任セラレタル者ニ就テ承認シ難キ情状アリト認めザル以内

ニ限ルモノトス

第二百九十七條 商人ノ其商業ニ付テ為セシ吩咐、依頼又ヒ委任

セシコトハ該人死去スルトモ該人ノ年明昏或ハ其時ノ狀況ヨ

リシテ該人此変ニ付テ及前ノ所存アリシコトヲ發見セザル以

内ハ之ヲ取消スコトヲ得ズ 第五十四條第二項ヲ

第二百九十八條 商賣事務ヲ処分スル為メニ委任スルコトニ付

テ委任者、受任者及ヒ他人ニト受任者、受任者ノ名ヲ以テ事務

ヲ決スル者ノ間ニ生スル管係ノ為メニ委任者、委任者及ヒ委任主

管ノ為メニ設ケタル第五十二條ノ成規ヲ準用ス可シ

委任セラレズシテ自ラ專任主管ト為テ商賣事務ヲ決スルモ

ノ及ヒ商賣事務ヲ決スルニ方リ委任ノ權域ヲ超越スル者ノ

為メニ設ケタル第五十五條ノ成規モ亦準用ス可シ

第二百九十九條 商賣事務ヨリシテ生セシ債金ヲ讓受ケタル

場合ニ於テ繼令讓受ケシ價額、原額ヨリ低下ナルモ亦原額

ヲ悉皆拂渡スコトヲ要シ得ベシ

第三百條 振り込マレシ債票ヲ領受セシ商人ハ該票所有主

ニ對シテ該票ノ管係ヲ完了スルコトヲ以テ義務トス可シ ○ 拂

渡票ニ署名シテ記載シタル承諾ハ該債票所有主ニ於テ為

ス契約ニ充ツ

第三百一條

命令

証券ニ記シテ該券面ノ物品ノ拂傳票及ヒ

商人ヨリ現貨ノ数量ヲ以テ代用シ得可キ物品或ハ金券ヲ以テ渡スルニ付テ該セシ契約但シ契約上ニ異リタル物品ヲ以テ拂渡スルヲ確徴セシモノニ限ルハ裏合ヲ以テ讓渡ス事ヲ得可シ

證券及ヒ裏合ハ其契約セシ事故ノ陳述合或ハ金額ノ領收証ヲ以テ徴スルヲ要セス

何人ヲ論セス右種類ノ拂傳票ヲ承諾セシ者ハ該票所主即チ始メテ該票ヲ授与セラレシ者或ヒハ裏合ニ因テ所有主タル者ニ論テ對シテ該票ノ管係ヲ完了スルヲ以テ義務ト為ス可シ

第三百二條

右ノ外船長ヨリ於セシ積荷目錄、運輸人ヨリ於セ

シ運輸狀、貨物及ヒ其他ノ移動スル可キ物品ヲ預リ置クニテ明許セラレラアル館舎ヨリ於セシ倉庫預リ品証合、船舶及ヒ積荷ヲ合ハレニセシ証合及ヒ保險證合但シ尽ク命令体ニ係ルモノニ限ルハ裏合ニ因テ讓渡スルヲ得ベシ

第三百三條

右兩條ニ於テ記列シタル証合ニ裏合スルルハ其裏合シタル證合ノ權理ハ渾テ讓渡人即チ裏合ニ記名セラレ

シ者ハ轉移ス可シ

義務ヲ負荷セシ者即チハ証合ノ定則ニ於テ或ハ直接ニ其所有主ニ對シテノミ唯抗拒スルヲ得

頁荷主ハ唯其領收證合ノ存在シテアル者ニ對シテノミ其義務ヲ完了ス可シ

第三百四條

此法律各中ニ掲載シテアルモノ、外尚ホ其他ノ命令体ナル拂傳票、契照及ヒ其他第三百三條ニ説明セシ効力

ヲ有シタル證券ヲ裏昏ニ因テ讓渡シ得ル歟ハ各州ノ法律ニ
遵テ裁判ス可シ

第三百五條 命令體ニテ裏昏ニ因テ讓渡シ得ベキ証券第三百
五條ヨリ第三百四條マテニ就テノ裏昏法式所有主タル確証此確証
ヲ審査スル事及ヒ交換スル迄ノ所有主ノ義務ニ付テハ獨逸
國為換通法ノ第十條ヨリ第十三條マテ及ヒ第三十六條ト第
七十四條トノ成規ヲ準用スベシ

第三百一六條 於テ記列シタル証券ノ紛失シタルキハ該券通
用停止ノ為メニ獨逸國為換通法ノ第七十三條ノ成規ヲ準用
スベシ○第三百二條ニ於テ記列シタル証券ノ通用停止ヲ為
スルハ各州ノ法律ニ遵フ可シ獨逸國為換法ノ第十一條ヨリ
第十三條マテノ成規ハ既ニ第百八十二條ニ於テ掲載セリ因
テ今茲ニ其他ノ箇條ヲ掲載セン即チ尤ノ如シ第三十六條裏

昏シタル為換券ノ所有主ハ總テ裏昏ノ最下ノ列ニ於テ該券所有
主トシタルモノヲ以テ真正トス○故ニ初次ノ裏昏ハ立人ノ名ヲ以テ
手署シ其後ノ裏昏ハ毎子ニ直チニ其上ニ在ル裏昏ニ於テ所有主ト
シテアルモノ、名ヲ以テ手署ス○若シ空頭裏昏數次ニ及フハ最後ノ
讓渡シ人ヲ空頭裏昏ニ因テ為換證券ヲ得タルモノトシテ看做ス○畫
線裏昏ハ讓受ケノ確證ヲ審査スルニ際シテハ裏昏シタルモノトシ
テ看做サズ第七十三條紛失シタル為換券ノ所有主ハ其
拂ヒヲ為ス地方ノ所在裁判所ニ該券ノ通用停止ヲ願ヒ
得可シ○右通用停止ノ処分ヲ施行セル後チ該所有主ハ該券
ノ通用停止セルノ憑據ヲ承諾人ニ示セシキハ該人ヨリ拂
ヒヲ要求シ得ベシ○該所有主該憑據ヲ示ガバシテ右払ヒ金
額ヲ裁判所或ヒハ其他竊託ヲ領受スルノ明許セラレタル
官解或ハ館舎ニ寄託スルノヲ要求スル權利アリ第七十四條

第三十六條、成規ニ遵テ真正ナル為換券所有主ハ其為換券ヲ不正ノ心術ヲ以テ得或ハ該券ヲ得ルニ際シ粗鹵上ヨリ失錯ノヲアリシキノニ唯其交換ヲ停止ス

第三百六條、若シ商人其商業上ヨリシテ貨物或ヒハ他ノ移動ス可キ物品ヲ賣渡シタルキ（仮令賣却セシ者共）物品ノ所有主ニ非スト（虫セ）正レク之ヲ讓受ケシ者ハ其所有主為ルヲ得而テ前所有主ノ権理ハ消滅ス○是ヨリ以前各人ノ該物品ニ付テ有スル抵當上ノ権理及ヒ其他物品上ノ権理ハ賣却スル時ニ於テ讓受人ハ報知シテアラサレバ然テ消滅ス

商人其商業上ヨリシテ貨物或ヒハ其他移動ニベキ物品ヲ抵當スルキ正シキ當主及ヒ其相続人ハ此物品ニ以前ヨリ存在スル所ノ所有権理抵當上ノ権理及ヒ其他物品上ノ権理ノ為

トニ損失ヲ蒙ルヲアラス

問屋運輸世話人及ヒ運輸人ニ法律上ヨリ属スル抵當上ノ権理ハ條約上ヨリ得タル抵當上ノ権理ト異ナルヲ無シ

若シ物品紛失セシキハ此條ノ成規ヲ準用スルヲ得ズ（第三十四條、第三百八十一條及ヒ第四百九條ヲ參看スベシ）

第三百七條、無記名證券ヲ賣却シ或ヒハ抵當スルヲ仮令商人ノ其商業上ヨリ為セシモノニ非ズ（前條ノ成規ヲ準用スルヲ得及ヒ該券紛失セシキモ亦同様タル可シ）

第三百八條、所有主ノ為メニ前兩條ヨリ尚ホ寬典ニ属スル各州ノ法律ハ前兩條ニ因テ扞格スルヲ無シ

第三百九條、若シ商人中ニ於テ双方ノ商賣事務上ヨリシテ醸生セシ資金ニ就テ移動スヘキ物品無記名証券或ハ裏金ニ因

テ讓渡シ得ヘキ証券ヲ掌握抵当ニ為セシトキハ民法上ニ割
定シテアル。掌握抵当ノ成規ヲ遵奉セザルモ妨ケ無シ
右場合ニ於テ抵当スルニ際シテハ簡略ノ契約法式ニ准ハザ
契約ヲ為シタル上左ノ事ヲ要ス

第一款 移動ス可キ物品或ハ無記名証券ニ就テハ民法上掌
握抵当ノ成規ニ於テ要スル如ク債主ハ物品ヲ交付
スル事

第二款 裏書ニ因テ讓渡シ得ベキ証券ニ就テハ之ニ裏書シ
テ債主ハ交付スル事

第三百十條 商人中ニ於テ双方ノ商賣支務上ヨリシテ醸生シ
タル資金ニ就テ掌握抵当ヲ受ケテアルニ際レ債主其償還
ヲ延滞セシキハ債主ハ別段ニ負債主ニ係リ一訴ヲ為サズモ
其抵当品ヲ以テ抵償ト為テテ得可シ

前件ニ就テ債主ハ其所轄裁判所ヘ之ニ必需ナル信憑ヲ差出
シ右抵償ヲ請願ス可シ但シ此裁判所ニ於テハ該件ニ付テ負
債主ヲ尋問セザレテ其損失ヲ債主ノ引請ニシテ抵当品ノ
一部或ハ全部ニ賣出カテ命ス

右抵償及ヒ賣却ヲ決行スルニ就テ債主之ヲ負債主ハ告知之
ヲ為シ得可キ以内ハ負債主ノ所在分明ナスベシ若シ債主之
ヲ放過スルキハ其損失ヲ賠償スル責ニ任ス可シ○但シ右賣
却ヲ決行スルニハ該告知ヲ為セシ徴ヲ要セズ

第三百十一條 若シ商人中ニ於テ双方ノ商賣支務上ヨリシテ
醸生セシ資金ニ就テ掌握抵当ヲ受ケテ而シテ法律上ノ処分ヲ
經ズ之ヲ以テ抵償ト為ス可キ契約ヲ規則正レク為シテアル
ニ際シ負債主其償還ヲ延滞セシキハ債主抵当品ヲ公告シテ
賣却ニ付シ得ベシ此場合ニ於テ若シ其抵当品相場会社ノ時

價或ハ市場ノ時價アルモノニ係ラバ之ヲ公告セズシテ商業
世話人或ハ談人ヲ欠クモハ投賣ノ権理アル官吏ニ依頼シ時
價ニ管セズシテ賣却ス可シ○債主右賣却ヲ決行スルニ就テ
負債主ニ之ヲ告知之ヲ為シ得ベキ以内ニス可シ若シ之ヲ放
過セズ債主其損失ノ責ニ任ゼザル可カラズ

第三百十二條 典當館信任社及ヒ銀行ニ於テ法律上或ハ其成
規條例上ヨリシテ抵当ヲ受ケ及ヒ之ヲ賣却ニ附スル為メニ
有スル持權ハ前條ノ成規ニ因テ扞格スルコト無シ
商人中ニ於テ商賣支務上ヨリシテ醸生セシ貸金ニ就テ掌握
抵当ヲ受ケ或ハ之ヲ賣却スルニ方リ各州ニ於テ掌握抵当ヲ
受ケ或ハ之ヲ賣却スル為メニ制定シテアル法律ヲ遵奉スル
トモ亦前條成規ノ為メニ法ニ及シタルモノトシテ看做サ
ズ

第三百十三條 一ノ商人他ノ商人ト彼此ノ間ニ於テ締約セシ
商賣支務上ヨリシテ醸生シ而テ既ニ払ヒ期限ニ及ビシ貸金
アルニ際シテハ負債主即商人ト相對ニテ商賣支務ノ管係上
自己ノ所有ト為セシ各種移動スベキ物品或ハ證券ノ猶ホ自
己ノ管理内ニ在ル以内或ハ否ナルモ積荷目録運輸状或ハ倉
庫預リ品證券ニ因テ該品物ヲ猶ホ処分シ得ベキ権理アル以
内ハ之ニ付テ強留権理ヲ施シ得ベシ
若シ負債主ヨリ物品ヲ交付スル前或ハ是ニ際シテ送金セシ
鑑視物品或ハ債主ノ擔當セシ義務或ル方法ヲ以テ物品ヲ交
付スルヲ強留スルコトニ就テ紛議ヲ生セバ前頭ノ權ヲ施スコ
トヲ得ベカラズ

第三百十四條 前條ニ於テ掲載セシ強留権理ハ未タ払ヒ期限
ニ屆テアル貸金ニ對スル氏左ノ場合ニ於テハ前條ノ成規ヲ

奉行シタル上ハ之ヲ施スヲ得ベシ

第一款 若シ負債主ノ財産ニ倒産ハ公告ヲ言渡サレシ時或

ハ負債主唯其私コヲ停止セシ時

第二款

若シ負債主ノ財産ハ「エツセクチヨシ」貸借ニ係ル争

律上ヨリ抑制ニ充ツルヲ云フ債主ノ要求ニ充ツルヲ以テ言渡サレ

而メ十分ノ結果無キ時或ハ負債主拂フ可キ契約ヲ

裁判通リ完了スルヲ對シテ誠言渡シテ遵奉セザ

ル為メニ保管ヲ言渡サレシ時

此場合ニ於テ負債主ノ鑑視物品或ハ義務ヲ擔當セシ事或ル

方法ヲ以テ物品ヲ交付スルニ對シテモ物品ヲ領収シ或ハ義

務ヲ擔當セシ後ニ於テ始テ第一款又ハ第二款ニ於テ掲載セ

シ状況發作ニ或ハ債主之ヲ知ル以内ハ亦テ強留権理ヲ有

ス

第三百十五條 第三百十三條及ヒ第三百十四條ノ成規ニ遵テ

強留権理ヲ有セシ商人ハ之ヲ施スニ就テハ速ニ負債主ニ報

知スベレ○若シ負債主ヨリ相当ノ期限内ニ於テ他ノ方法ヲ

以テ保證セザル時ハ債主其所轄裁判所ニ負債主ニ對シテ上

訴セシ上該物品ヲ賣却スルヲ請願スルノ權アリ然ル後テ

債主ハ負債主ニ係ル他ノ債主ニ先ンジテ其賣拂ヒ價金ヲ以

テ抵償ニ充ツルヲ得ベシ○債主ハ負債主ノ倒産負債高ニ

對シテ亦該権理ヲ施シ得ベシ

第三百十六條 第三百十三條及ヒ第三百十五條ニ於テ債主ニ

附シタル権理ハ債主ト負債主トノ間ニ於テ別段ノ契約アル

以内ハ之ヲ施行スヲ得ベカラズ

第三節

商賣又務ヲ結約スル事

第三百十七條 商賣支務ニ就テノ契約昏ハ公正ノ証昏或ハ
他ノ法式ヲ以テ徴スルヲ要セズ

唯此法律昏中ニ於テ前項ノ支ヲ要スル場合ニ於テハ例外ト
ルベシ第百七十四條第二百八條第三百
十條及ニ第百三十一條ハ即チ例外ニ屬ス

第三百十八條 商賣支務ヲ結約スル際現場ニ在ル者ニ向テ答
セシ談判ニ對シテハ即時ニ回答ヲ為サバ爾可カラズ否ザレ

ハ談判人ソノ談判セシトテ久ク猶守セザル妨ケ無シ
第三百十九條 現場ニ不在ノ者ニ向テ發セシ談判ヲ談判人回

答ノ到着ヲ規則正シキ時間ノ遡送ニ就テ待テ得ベキ日限内
マテ猶守スベシ○此日限ヲ算定スルニ就テ談判人具談判ノ

規則正シキ時間ノ遡送ニ附セシ承諾昏状右ノ限後ニ届リ始
テ到達レ而シテ談判人ヨリ此到達セシ日ト右日限後トノ間

時或ハ此到達セシ後ニ於テ遡送ニ破談ノ通知ヲ為ス時ハ契約
完結ニ至ラズ

第三百二十條 破談ノ通知若シ談判昏ヨリ早ノ或ハ之ト同時
ニ他ノ一方ハ到着スル時ハ談判ヲ為サバ爾モトシテ看做

ス
又破談ノ通知若シ承諾ヲ為スル前或ハ之ト同時ニ他ノ一方
ニ到着スル時ハ承諾ヲ為ザルモトシテ看做ス

第三百二十一條 現場不在ノ者ト契約ヲ結ブ時ハ承諾昏ヲ遡
送ニ附セシ日ヲ以テ契約完結ノ日トシテ看做ス

第三百二十二條 談判セシ事務ニ付テ現場或ハ將來支ヲ改換
スル要約ヲ承諾スル時ハ元ノ談判ヲ取消シ更ニ談判シタル

契約トシテ看做ス

第三百二十三條 若シ依頼ヲ受ケシ商人ト依頼人トノ間ニ於

テ支務ハ契約ヲ為シ又ハ依頼ヲ受ケシ者依頼人ノ為ニ右
契約上ノ依頼ニ従テ受スル時ハ遲滞無ク回答ヲ為スヲ以テ義
務トスベシ之ニ及スルハ其點過ヲ以テ依頼セシ支ヲ承諾シ
タル者トシテ者做ス

又商人依頼ヲ謝絶スルキハ依頼人ヨリ其送致セル貨物或ハ
其他ノ物品ヲ談人之ヲ照会セズレテ送致セル以内ハ依頼人
ノ雜費談人之ニ對シテ概當シテアル以内ハヲ以テ損害ヲ保
護スルノ義務ヲ負荷ス

高法裁判所ニ於テハ談商人ノ請願ニヨリ談物品ヲ所有人ヨ
リ他ノ方法ヲ以テ所置スルマデ之ヲ共同倉庫或ハ他人ノ預
ケ置ク事ヲ命シ得可シ

第四節

商業支務ヲ纏結スルニ申

第三百二十四條 商業支務ヲ纏結スルニハ條約各ニ於テ定メ
タル又ウハ支務ノ性質或ハ契約人ノ意見ニ隨テ纏結ノ地方
トシテ看做シタル地方ニ於テスベシ

前掲ノ支ヲ欠ル場合ニ於テハ契約ノ時ニ際シ義務ヲ負荷シ
タルモノ、舖店或ハ之ヲ欠ク時ハ住居ノ所在地方ニ於テ纏
結スベシ〇但シ契約ノ時ニ際シ或ル物品ノ他ノ地方ニ在ル
テ契約人ノ詳悉セシモノヲ交附スル時ハ即チ該地方ニ於
テ之ヲ執行ス可シ

第三百二十五條 金負(裏唇)シタル及ビ無記名証唇ヲ除キテ拂
フニ方リ若シ條約各ニ於テ又ハ支務ノ性質或ハ契約人ノ意
見ニ隨テ別段ニ定メタルトキ以内ハ負債主タル者損失ヲ
自己ニ引請ケ及ビ自己ノ雜費ヲ以テ負債ノ釀生セシ時ニ際
シ債主、舖店或ハ之ヲ欠ク時ハ住居ノ在ル地方ニ於テ債主

ニ交附スベシ

裁判所々轄及ヒ其他ノ關係ヨリシテ定ムル負債主ノ法律上ノ纏結地方ハ此成規ニ因テ拵格スルヲ無シ

第三百二十六條 契約セシ更ヲ纏結スル期限ヲ契約各ニ於テ定メテアラザル時ハ其更情或ハ商賣慣習法ニヨリテ別段兼認スルコト有ラザル以内ハ何時ナリトモ纏結スルヲ要シ又ハ纏結スルコトヲ得ベシ

第三百二十七條 纏結ノ期限ヲ春秋或ハ其他ノ季節トシテ定メテアルトキハ纏結スル地方ノ商賣慣習法ニ因テ判決スベシ

纏結ノ期限ヲ月ノ中間トシテ定テアル時ハ其月ノ第十五日ヲ以テ纏結ノ日トシテ看做ス可シ

第三百二十八條 若シ契約ニシコトノ纏結ヲ契約以後其ノ定規ヲ經過シタル上為スベシ定メタル時ハ則チ左ノ時期ニ於テ纏結スベシ

第一款 日ヲ以テ期限ヲ定メテアル時ハ即チ其期限ノ最後ノ日ノ日数ヲ算定スル内ニ結約セシ日ヲ加フ可カラズ而テ日限ヲ八日或ハ十四日トシテ定メテ有ルトキハ滿八日滿十四日タルヲ了知スベシ

第二款 期限ヲ何週何月或ハ数月ヲ包含シタル時期(歳半年及ヒ四分ノ一年)トシテ定メテ有ル時ハ其最後ノ週間及ヒ月内ニ於テ結約セシ日ノ名目或ハ数日ニ當ル日若シ最後ノ月内ニ該日ヲ欠クトキハ該月ノ最終ノ日ニ於テ纏結スベシ

半月ト称スルコトハ十五日間ト同ジキモノトシテ看做ス○纏結ノ期限ヲ全一箇月全幾許月或ハ全一

箇月半トシテ定メテ有ル時ハ第十五日ヲ全一箇月
テ暮ス可シ

結約セシ日ノ以後ヲ期限ノ起頭ト定メズレテ他ノ時期或ハ
某ノ事ノアル時ヲ以テ定メテアル時ト虽亦前掲ノ成規ニ
循テ期限ヲ暮スベシ

第三百二十九條 纏結ノ日ヲ日曜日或ハ一般ノ祭日トシテ
定メテアル時ハ其次ノ執業日一週間内日曜日ヲ除キ其他ノ日ヲ云ヲ纏結ノ
日トナスベシ

第三百三十條 纏結ヲ某ノ時期以内ニ於テ為スベク定メテア
ル時ハ該時期ノ經過以前ニ於テ纏結セザル可カラズ

時期ノ最終ノ日若シ日曜日或ハ一般ノ祭日ニ當ル時ハ遅ク
モ其前ノ執業日ニ於テ纏結セザル可カラズ

第三百三十一條 右時期ノ外定メテ第三百二十八條ヨリ第三百

三十條迄ヲ交換スルハ相場会社ニ決算日ニ當ル以内ハ
相場会社ノ規則ニ譲ル

第三百三十二條 纏結ノ日ハ即チ纏結日ニ至リ通常ノ執行時
間ノ内ニ於テ受授ス可シ

第三百三十三條 契約セシ事ヲ纏結スル契約各ノ期限ヲ展期
シ新規限ノ分界明瞭ナラザルモ旧期限經過セシ後ノ第一日
ヲ以テ起頭ト為ス可シ

大
歳
首

第三百三十四條 總テ拂ヒ日ヲ定ムル場合ニ於テ唯一方ノ契

約人ノ便否ニノミ関シ之ヲ定ムルカ否ハ事務ノ性質及ヒ双

方契約人ノ意見ニ随テ決定ス可シ

右ニ就テ假令債主拂ヒ日ノ前ニ拂ヒヲ為スコトヲ得ル氏之

カ為ノニ別段ノ契約又ハ商賣習慣法ニ於テ豫折ヲ認許セザ

ル以内ハ債主ノ承諾ヲ得スレテ豫折ヲ要スル權ナシ

第三百三十五條 契約者ニ於テ貨物ノ性質及ヒ品位ニ就テ別

ニ詳細ナルコトヲ定メテアササル時ハ義務ヲ負荷スル者中其

ノ種類及ヒ品位ノ高賣品ヲ交付スヘシ

第三百三十六條 度数秤量金貨ノ品位金貨ノ種類期限ノ數及

ヒ契約ヲ纏結スル地方ノ距離ニ付テ為護生スル長渾テ契約

上ニ循テ之ヲ履踐スヘシ

契約者ニ於テ定メタル金貨ノ種類其拂ヒヲ為ス地方ニ於テ

流通セズ或ハ唯計算上ニシテ稱呼スルモノニ係ラハ契約各
コトエツテ正テ「確定」ト云フ語或ハ其他類似ノ副文ヲ記載
シ必ス契約各ニ於テ定メタル金貨ヲ以テ拂ヒテ為スヲ約
シテアササル以内ハ其金額ヲ拂ヒテ為ス時ノ実價ニ隨ヒ其
州ノ金貨ヲ以テ拂フヲ得ヘシ

第二章

購買ノ事

第三百三十七條 衆人ニ向テ物價表、舖店物品表、鑑視物或ハ雜
飛ヲ示スヲ以テハ明晰ニ徴シ又ハ貨物價直及ヒ數量ヲ確明
セスレテ為ス賣拂フコトニ付テハ談判成ルルニ至テ買受ル者ノ
為メニハ契約上ノ談判ニ非ズ

全價直ニ對シテ全數量ヲ以テ代用シ得ヘキ物品ヲ販賣スル
商賣事務ヲモ亦購買ノ成規ニ循テ判決スヘシ

第三百三十九條 物品ヲ親視スル前又ハ鑑視物ヲ見サル前ニ

成ル買受ハ買受人貨物ヲ檢閲シ而シテ後意ニ適フヘキ該人
ノ意中ニ存スル預期ヲ帶ヒニ結約スルモノナリ

買受人ハ其意ニ適フ前ハ買受ノ約ヲ履踐セサルモノナリ○
若シ買受人契約ニ或ハ土地習慣上ノ期限ヲ經過スルマテ意

ニ適セサル時ハ賣渡人ニ於テ廢約スルモノナリ
契約上或ハ土地習慣上ノ期限ヲ欠クニ於テハ賣渡人其時ノ

現状ニ適シタル期限ヲ經過セシ後買受人ニ對シテ回答ヲ
督促スルコトヲ得ヘシ若シ買受人督促ヲ受ケ即時ニ回答セサ

ル時ハ廢約スルモノナリ
親視前又ハ鑑視物ヲ見サル前ニ賣渡ス貨物ヲ親視又ハ鑑視

物ニ供スル為メニ既ニ交付シタル時ハ期限經過セシ後或ハ
督促ニ及ヒシ工買受人點過セハ之ヲ意ニ違フタルモノトシ

テ看做ス

第三百四十二条 鑑視物又ハ雛形ヲ看了セレ後ニ於テ成ル買受
ハ預期ヲ帯ヒサル買受トス然レ貨物其鑑視物又ハ雛形ニ協
フヘキ賣渡人ノ義務ヲ帯ヒテ結約スルモノナリ

第三百四十一条 鑑視物トレテ買受クルモノハ動搖ノ基礎ヲ
附加レタル預期ヲ帯ヒサル買受トス

第三百四十二条 賣渡人及ヒ買受人ノ契約ヲ纏結スル地方ノ
為ノニ第百二十四条ノ第一款ノ成規ヲ準用スヘシ

右成規ノ外別段ノ契約アラサル時ハ結約ノ時ニ際シ賣渡人
ノ舖店或ハ之ヲ又ク時ハ其住居所在ノ地方ニ於テ貨物ヲ交
付スヘシ○然レ某ノ物品結約ノ時ニ際シ他ノ地方ニ存在シ
而シテ契約人ノ詳悉ニ係ルモノヲ賣渡ス時ハ即チ該地方ニ
於テ之ヲ交付スヘシ

事務ノ性質ニ因リ或ハ契約各又ハ商法習慣法ニ於テ別段ノ
規則アラサル以テハ品物交付ノ際代價ヲ拂フヘシ○其他ハ

第三百五十五条 成規ヲ準用スヘシ

第三百四十三条 買受人貨物ヲ遅延セズ領收スルマテハ賣渡
人法ニ依ラサル商人工ノ斡旋ヲ為シ之ヲ保護スルヲ以テ

義務トスヘシ

買受人貨物ノ領收ヲ遅延スル時ハ損害及ヒ雜費ヲ買受人ノ
引請ケトシテ賣渡人ヨリ該物品ヲ共同倉庫或ハ他人ノ寄託

スヘシ○又賣渡人ハ豫先ニ買受人ハ照会ヲ為セシ後貨物ヲ
公賣ニ付スル權アリ若シ該物品相場会社ノ時價或ハ市場ノ

時價アルモノニ係ラハ公賣ニ付セズレテ豫先ニ買受人ハ照
会ヲ為シ後商賣世話人或ハ之ヲ欠クニ於テハ投買ノ權アリ
ル官吏ニ依頼シテ相当ノ價ニテ賣却スルヲ得ヘシ○貨物

州 權 州

藏 首

損敗レ易ク或ハ猶豫セハ損失ヲ来スヘキニハ豫先ノ照会ヲ要セス

賣拂ヒテ沃行スルニ臨ミテ賣渡人速ニ買受人ハ報知之ヲ為シ得ヘキ以内ハ之ヲ為スヘシ若シ之ヲ放過セハ損失ヲ賠償スル義務ヲ負荷セサル可ラス

第三百四十四条 買受人ハ貨物ヲ他ノ地方ヨリ送致スヘクシテ此送致ノ方法ヲ該人ヨリ別段定メサル時ハ賣渡人買受人ニ代リ法ニ依リタル商人工ノ斡旋ヲ以テ該方法ヲ定メ特ニ貨物ノ運輸ヲ斡旋レ或ハ之ヲ執行スル者ヲ撰択スルトテ依託セラレタルモノトシテ看做ス

第三百四十五条 貨物ヲ運輸スルニ或ハ其他貨物ヲ運輸スルトニ從事シタル者ハ交付セル後ハ買受人運輸工ヨリ醸生スル損害ヲ負荷スヘシ○但シ買受人運輸ノ方法ニ就テ別段ノ指教ヲ與ヘ而シテ賣渡人抗拒ス可カラサル事故アラステ之ヲ背犯スル時ハ賣渡人是ヨリ醸生スル損害ニ對シテ其責ニ任スヘシ

賣渡人契約ニ循テ其義務ヲ纏結スル処ニ充テ、而シテ之ニ於テ運輸ヲ終了アル場所ニ於テ貨物ヲ買受人ハ交付スル時ハ運輸工ヨリ醸生スル損害ヲ負荷スヘシ○運輸ニ付テ賃銀及ヒ雜費ノ拂ヒテ賣渡人ニテ擔当スルトノミヲ以テ運輸ノ終了スル場所ヲ該人ノ纏結スル場所トシテ看做ストテ漏ラス

前掲ノ時期ヨリ前ニ買受人ニテ損害ヲ負荷スル事民法上ニオイテ例規アル以内ハ此条ノ成規ノタメニ拵格スルト無シ

第三百四十六条 買受人ハ貨物ヲ契約上ノモノニ異ナラス或

大藏省

ハ別段ノ契約ヲ欠カハ法律上ニ於テ要スルモノ
ニ依テ以テ領收スルヲ以テ義務ト為スヘシ
然レテ領收スルヲニ就テ契約上或ハ土地習慣上ヨリ又ハ其情
況ニ因リ別段ノアラサル以内ハ速ニ之ヲ為スヘシ

第三百四十七條 貨物ヲ他ノ地方ヨリ送致シタル時ハ買受人
規則正シク受授了リレ後猶豫セズ貨物ヲ檢閲シ若レ之ト契
約上或ハ法律上ノ物ヲ第^{三百三十五}條ト異ナルニ於テハ直チ
ニ賣渡人ニ報知ヲ為スヘシ

規則正シク貨物ハ受授了リレ後之ニ就テ直チニ檢閲ヲ為ス
ニ際シ詳悉レ得ルカヲササル契約上ニ依ハサルモ竟ニ發出
セサル以内買受人前掲ノ報知ヲ放過スル時ハ其貨物ヲ以テ
意ニ適フタルモノトシテ看做ス

又前掲ノ如キ後日ニ至ラサレバ詳悉レ難キ契約上ニ依ハサ
ルモノ後日ニ至リ發出スル時ハ之ヲ發頭セシ後直チニ賣渡
人ニ報知ヲ為スヘシ之ニ反セバ其貨物ヲ以テ意ニ適フタル
モノトシテ看做ス

前掲ノ成規ハ物品ヲ親視スル前或ハ鑑視物ヲ見サレ前ニ成
ル買受又ハ鑑視物ヲ看タル後ニ成ル買受ニ就テ送致シタル
貨物ヲ法式ニ指テ親視シ或ハ檢閲スルニ際シ詳悉レ得可カ
ラサル契約上ニ依ハサルモノ後日ニ至リ發出シタル場合ニ
モ亦準用スヘシ

第三百四十八條 買受人若レ他ノ地方ヨリ送致シタル貨物ニ
就テ契約上ニ依ハサルモノ發出セラル為メニ之ヲ拒ム時ハ
該人一時該品ヲ斡旋シテ寄託スルヲ以テ義務ト為スヘシ

右物品ニ依テ發出シタル契約上ニ依ハサルモノ領收ノ際或ハ
後日於テ發出スル氏買受人該事ニ通曉スル者ニ依頼シテ

第 三 百 三 十 五 條 參 看

藏 首

該品ノ模様ヲ鑑定セシムルヲ得ヘレ○賣渡人ハ買受人ヨ
リ契約ニ悞ハサルモノ、發出シタル為メニ貨物ヲ拒ムノ報
知ヲ受ル時ハ前掲ノ方法ヲ以テ鑑定ヲ要スル權アリ
鑑定人^{所チ前掲ル者}ハ該關係人ノ願ニ因テ商法裁判所或
ハ之ヲ欠カハ地方裁判官ヨリ命ス

鑑定人ハ其意見ヲ書面或ハ調音ニテ報知スヘシ
貨物若シ損敗シ易ク或ハ猶豫スル時ハ損失ヲ来スヘキモノ
ニ係ラハ買受人第三百四十三條ノ成規ヲ遵奉レテ之ヲ賣却
スヘシ

第三百四十九條 若シ貨物ノ性質契約上或ハ法律上ノモノニ
悞ハサルハ買受人該品ヲ領收セシ日ヨリ六週間ヲ經過レ
タル後ニ於テ始テ發顯スル氏該人ニ於テ其効ヲナス
右契約ニ悞ハサルモノ、為メニ賣渡人ニ對シテ為ス詞訟ハ

買受人該物品ヲ領收セシ日ヨリ後六週間内ニ於テ期滿得免
スヘシ

若シ第三百四十七條ニ於テ掲載シタル契約上ノ悞ハサルモ
ノニ就テ報知ヲ直チニ送致スルハ買受人該貨物ヲ領收セ
シ日ヨリ後六週間内ニ之ヲ為サ、ル時ハ抗拒スル効ヲ失フ
モノナリ○右期限内ニ於テ報知ヲ為セハ抗拒スル効終期無
ルヘシ

物品ノ或ル種類ニ就テ短キ期限ヲ定メテアル特別ノ法律及
ニ商賣習慣法ハ此成規ノ為メニ扞格スルヲナシ
賣渡人ノ保任スルハ就テ契約上ニ於テ長短ノ期限ヲ確定
シテアル時ハ即チ之ヲ準用スヘシ

第三百五十一條 第三百四十七條及ニ第三百四十九條ノ成規ハ
賣渡人ノ詐偽アリ場合ニ於テハ賣渡人ニ於テ効ナシ

第三百五十一条 土地習慣法及之特別ノ契約ニ目テ別段定メ
タルモノアラサル以内賣渡人ハ交付スルノニ就テハ雜費特
ニ度数ヲ計リ及之秤量ヲ權ル雜費ヲ支弁シ買受人ハ領收ス
ルノニ就テノ雜費ヲ支弁スヘシ

第三百五十二条 價直ヲ貨物ノ秤量ニ隨テ算定スルニ際シ特
別ノ契約或ハ貨物ヲ交付スル土地ノ高賣習慣法ニ目テ別段
定メタルノアラサル時ハ外包ノ秤量ヲ減却スヘシ○外包ノ
秤量ヲ逐個精密ニ權ル代ノニ或ル定度又ハ比例ニ隨テ若干
減却スヘキカ並ニ買受人ノ為メニ幾分ヲ貨物ノ秤量トシ
テ概算スヘキカ又損敗レタル部分ノ為メニ償トシテ幾分ヲ
要シ得ルカ否ハ都テ契約各或ハ物品ヲ交付スル土地ノ高賣
習慣法ニ循テ決スヘシ

第三百五十三条 契約各ニ市場ノ時價或ハ相場會所ノ時價ヲ
以テ價直トシテ定メタル場合ニ於テ紛議生セハ事務ヲ纏
結スル時或ハ地方又ハ該地方ニ對シテ關係アル貿易場ニ於
テ其地ノ物價表ニ隨テ確定シタル通價ヲ以テ、ヘシ若シ之
ヲ欠キ或ハ之ニ不正ノ徴ヲハ纏結スル時或ハ地方ニ於テ
他ノ結了レタル買受契約ヲ比較シテ得ル平均ノ價ヲ以テス
ヘシ

第三百五十四条 若シ買受人物價ヲ遲滞シテ拂ハス而シテ貨
物ヲ之ニ未タ交付セシテアル時ハ賣渡該人ニ對シテ契約
ヲ纏結シ及之纏結ヲ遲滞シタル為メニ釀生セシ損失ノ弁償
ヲ要求スルハ或ハ纏結スルノ代リニ第三百四十三条ノ成
規ヲ遵奉シテ貨物ヲ該人ノ為メニ賣却シ而シテ損失ノ弁償
ヲ要求スルハ或ハ契約ヲ解散セントスルハ或ハ結約セサル
モノニ就テ看做スル其撰択スル所ニ在ルヘシ

第三百五十五条 若シ賣渡人貨物ヲ交付スルコトヲ遲滞スル時
ハ買受人該人ニ對シテ契約ヲ纏結シ及ヒ纏結ヲ遲滞シタル
為メニ醸生セシ損失ノ弁償ヲ要求スルハ或ハ纏結スルコトノ
代リニ纏結セタル為メニ醸生スル損失ノ弁償ヲ要求スルハ
或ハ契約ヲ解散セントスルハ或ハ結約セサルモノトシテ看
做スル其撰択スル所ニ在ルヘシ

第三百五十六条 一方ノ契約人前条ノ成規ニ循テ他ノ一方ノ
契約人ニ對シテ纏結スルコトノ代リニ纏結セサル為メニ醸生
スル損失ノ弁償ヲ要求セント欲スルハ或ハ契約ヲ解散セン
ト欲スルハ該人ニ報知ヲ為スヘシ而シテ之ニ於テ復ヒ怠慢
セシ約ヲ踐シタル為メニ其時ノ現状ニ適當スル日限ヲ共
フヘシ

第三百五十七条 貨物ヲ確定シタル時期迄ニ或ハ確定シタル

日限内ニ必ス交付スルコトヲ契約シテアル時ハ第三百五十
六条ノ成規ヲ準用スルコトヲ得ズ○買受人及ヒ賣渡人ハ第三
百五十四条及ヒ第三百五十五条ノ成規工ヨリ自己ニ屬スル
権ヲ其撰択ニ隨テ行フコトヲ得ヘシ○然シ纏結セント欲スル
者ハ時期或ハ日限ノ經過セシ後速ニ他ノ一方ノ契約人ニ報
知ヲ為スヘシ若シ之ヲ放過セハ後日ニ至リ纏結スルコトヲ得
ズ

賣渡人纏結スルコトノ代リニ漫過シタル買受人ノ為メ物品ヲ
賣却セント欲スルニ際シ該品市場ノ時價或ハ相場会所ノ時
價アルモノニ係ル時ハ時期及ヒ日限ヲ經過シタル後直チニ
報知ヲ為サハルヘカラス○遷延シテ賣却スル時ハ之ヲ買受
人ノ為メニ行フタルモノトシテ看做サス○豫先ニ賣拂ヲ決
行スル照会ヲ要セス但シ此際ニ於テモ亦賣渡人買受人ノ賣

拂_レテ決行シタル_レヲ替滞セズ報知ス_レ
若シ買受人纏結スル_レノ代リニ纏結セサル_レ為_レニ醸生セシ
損失ノ并償ヲ要求スル_レニ際シテ貨物市場ノ時價或ハ相場會
所ノ時價アル_レモノニ係ラハ賣渡人ヨリ拂フ_レヘキ損失償額ハ
價直ト其物品ヲ交付スル時或ハ地方ノ市場ノ時價或ハ相場
會所ノ時價トノ間ノ差額ヲ以テ之ニ充ツ_レヘシ而シテ其項
失額詎額ヨリ高度ニ達シタル明徴アル時ハ之ヲ要求スル權
理アリ

第三百五十八條 第三百五十七條ノ場合ニ於テハ總テ契約人
タルモノ他ノ一方ノ契約人ノ遲滞セ_レテ_レヲ遲滞人ノ雜費ニ
テ録事ハ証各ヲ以テ徴スル權アリ

第三百五十九條 若シ第三百五十四條第三百五十五條及_レ第
三百五十六條ノ場合ニ於テ特別ニ契約ノ性質契約人ノ意見
或ハ交付ス_レヘキ物品ノ性質ヨリシテ双方ヨリ幾分ノ義務ヲ
互ニ纏結ス_レテ_レノアル契約ヲ為_レシタル時ハ一方ノ契約人
ヨリ契約ヲ解散スル_レヲ望マハ唯他ノ一方ノ契約人ヨリ纏
結セサル契約ノ部分ニ之ヲ為_レス_レヲ得_レヘシ

第三章

問屋ノ事務ノ事

第三百六十條 凡ソ平常己レノ常職トシテ自己ノ姓名ヲ以テ
依託人ノ為_レニ高賣事務ヲ結約スルモノヲ問屋トナス
問屋ハ他人ト結約セシ事務ニ對シテ獨リ〔依託人ニ關係ナス〕
其権理及_レ義務ヲ有ス
問屋ト他人トノ間ニ於テハ總テ権理及_レ義務アリ
依託人ヨリ自己ノ姓名ヲ以テ事務ヲ結約ス_レヘキ_レヲ明徴ヲ
以テ定ムル時ハ之ヲ問屋事務トシテ看做ヤス但シ高賣事務

ニ付テ為ス通常ノ依頼トシテ者做ス

第三百六十一條 問屋ハ真正ナル商人工ノ用意ヲ以テ委託人
ノ為メニ契約ニ随テ事務ヲ処分シテ談入一之ニ就テ切
要ナル報知ヲ為スヘシ特ニ委託セラレシ事ヲ処分セシ後直
チニ之ヲ報知スヘシ又委託人ハ事務ニ関スル計算ヲ送致シ
及ヒ事務上ヨリレテ需要スルモノハ俾テ談入ノ為メニ支弁
スルコトヲ以テ義務ト為スヘシ

第三百六十二條 問屋委託ヲ承ケレテ及シテ処分スル時ハ依
託人ニ對シテ損失ヲ弁償スルコトヲ以テ義務ト為スヘシ而レ
テ委託人ニ於テハ之ヲ自己ノ為メニ執行セサルモノトシテ
看做スモ亦妨ケナシ

第三百六十三條 問屋ハ委託人ヨリ指教ヲ承ケレバ價值ヨリ低
度ニ賣却ヲ為セシ際其指教上ノ價宜ニ賣却シ得ヘカラサル
コト及ヒ談人ニ損害ヲ生セサル為メニ賣拂ヒテ決行セレコトヲ
徴セサル以内ハ談人ニ對シテ指教上ノ價直ト賣拂ヒレ價直
トノ間カノ差額ヲ弁償セラル可ラス

第三百六十四條 問屋委託人ヨリ買受ケニ付テ指教ヲ承ケレ
バ價值ヲ踰越スル時ハ談人ハ買受報知ヲ為ス際同時ニ右差額
ノ供給ヲ請求セサルヘカラス否サレバ委託人之ヲ自己ノ為
メニ執行セサルモノトシテ看做スコトヲ得ヘシ
委託人買受ケレテ自己ノ為メニ執行セサルモノトシテ看
做サント欲セバ買受報知ヲ得ルマ否ヤ猶預セヌ問屋ハ此意
ヲ通知スヘシ之ニ及セバ委託ヲ踰越セレコトヲ意ニ扱ケタル
モノトシテ看做ス

第三百六十五條 委託人ハ送致スヘキ物品之ニ交付スル際ニ
於テ若シノ損傷レ或ハ不良品混合レテアハ問屋タルモノ

運輸人、或ハ船主、對シテ其権理ヲ行ヒ、及ニ右現状ノ証状ヲ
視察シ而シテ、猶預セズ、依託人ノ報知ヲ為スヘシ
問屋之ヲ放擲シテアル時ハ、前項ヨリ釀生セシ損害ニ對シテ
其責ニ任スヘシ

問屋ハ右現状ヲ之ニ通曉シタル者ハ、委シテ鑑定セシムルコト
ヲ得ベシ、而シテ若シ物品損敗シ易ク、或ハ遷延セハ損害ヲ未
スヘキモノニ係ラハ、第百四十三條ノ成規ヲ遵奉シ、物品ヲ
賣却スルコトヲ得ヘシ

第百六十六條 物品上ニ價直ヲ失却スヘキ恐レアル變動ヲ
生シ而シテ、依託人ノ指教ヲ得ヘキ時、日ヲ待チ得ヘケラス、或
ハ依託人ヨリ指教ヲ與フルコトヲ漫過スル時ハ、問屋第百四
十三條ノ成規ヲ遵奉シ、物品ヲ賣却スルコトヲ得ヘシ
右ノ他何レノ場合ニ於テモ、問屋ヨリ物品ニ關係スル義務ヲ

尽スト、並モ依託人ニ於テ物品ヲ処分スル指教ヲ漫過スル時
ハ、問屋前掲ノ権理ヲ有ス

第百六十七條 問屋物品ヲ保護スル以内、該品ニ差出スル
損失、或ハ災害ニ對シテハ、該人ヨリ此損失、或ハ災害ハ真正ナ
ル商人工ノ用意ヲ以テ、抗拒シ得可カラサル事情ヨリ差出
セルコトヲ徵セサル以内ハ、其責ニ任スヘシ

問屋ハ依託人ヨリ物品ノ保險方法ニ付テ、指教ヲ承ケ而シテ
其保險ヲ放擲セシ時、之ニ對シテ其責ニ任スヘシ
第百六十八條 問屋ヨリ其結約セシ事務ニ就テ、貸金ハ依
託人之ヲ讓受シ、後始テ負債主トシテ、該事務ニ對シテ
権アリ

但シ右貸金、一之ヲ讓渡サスル依託人ト問屋、或ハ問屋ノ債
主ト、問ノ管係ニテ、依託人ノ貸金トシテ看做スコトヲ得ヘシ

第三百六十九條 問屋依託人ノ承託ヲ得スレテ他人ニ豫支ヲ為シ或ハ掛賣ヲ為ス時ハ之ニ就テノ損害ハ自己ニ擔當スヘシ
但シ事務ヲ執行スル土地ノ高業習慣法ニ於テ掛賣ヲ認許シテアル以内依託人ヨリ別段ノ定約アラサル時ハ問屋ニ於テ之ヲ為スコトヲ得ヘシ

問屋法ニ反レテ掛賣ヲ為シ而シテ依託人ヨリ之ヲ認許セサル時ハ該人ニ對シテ物價ノ負債主ト為テ直チニ其拂ヲ為ス可シ○問屋即金ニテ賣却セハ掛賣ヨリ低價ナルヘキコトヲ徴セハ即チ唯該價ヲ依託人ハ拂フヘシ而シテ若シ該價指款ヲ承ケレ價直シリ低度ニ至ル時ハ第三百六十三條ノ成規ニ循テ差額ヲ賠償スヘシ

第三百七十條 問屋ハ契約人ニ代テ依託人ニ對シテ拂ヒヲナスコト或ハ其契約ヲ纏結スルコトヲ契約人ヨリ依頼セラレ又ハ之ヲ其舖店所在ノ地方高業習慣法ニ於テ認許レテアル時ハ即チ之ヲ為スコトヲ得ヘシ
前項ノ如ク契約人ヲ代理スル問屋ハ依託人一拂ヒ期限ニ於テ相當ノ纏結通例ノ拂ヒヲ為スコトノ纏結ニ就テ其契約工ノ管係ヨリ生スル法律上ノ義務ヲ尽スト同クヲ為スコトニ就テ直接ニ依託人ニ對シテ自己ニ之ヲ擔任スヘシ
契約人ヲ代理スル問屋ハ其報銀ヲ受クル権理アリ
第三百七十一條 依託人ハ問屋ニ對シテ問屋ヨリ現貨拂或ハ事務ヲ完了スル為メニ需要セシモノ又ハ使用セシモノヲ返還スル義務ヲ負荷ス○問屋ノ倉庫及ヒ運輸器械ヲ使用セレ報銀共ニ之ニ關係セシ者ノ労力ノ報銀ニ於テモ亦前掲ノ

如クナルヘシ

問屋其完了セシ事務ノ周旋料ヲ要スル権理アリ○完了セサル事務ニ對シテハ周旋料ヲ要スルコトヲ得可クラストモ此際ニ於テ物品ヲ交付セシ周旋料土地ノ習慣法ニ於テ之ヲ認許シテアル以内ヲ要スル権理アリ

第三百七十二條 若シ問屋依託人ヨリ指教ヲ承ケレトヨリ利益アル契約ヲ為ス時ハ其利益ハ依託人ニ帰スヘシ

若シ問屋ノ賣却セシ價直依託人ヨリ指教セレ取下ノ價直ヨリ高度ニ違スル時或ハ若シ問屋ノ買受ケレ價直依託人ヨリ指教セレ取高ノ價直ヨリ低度ニ至ル時モ亦項ノ成規ヲ準用スルコトヲ得ヘシ

第三百七十三條 為換券ヲ買受ケル依託ヲ擔任セシ問屋若シ該券ニ裏合スルコトヲ為ハ之ヲ法式ニ循テ各レ及ヒ遷延セサルコトヲ以テ義務ト為スヘシ

ルコトヲ以テ義務ト為スヘシ

第三百七十四條 問屋ハ其斡旋シタル物品該人猶之ヲ其管轄

内ニ有ル以内或ハ否ラサルモ積荷目錄運輸狀或ハ倉庫品預リ証各ニ印テ猶之ヲ所分レ得ヘキ位置ニ立ツ以内ハ該

品ニ付テ支弁シタル雜費周旋料該品ニ関シテ為シタル豫支及ヒ貸附該品ノ為ニ振出セシ為換券或ル方法ヲ以テ為シ

タル契約或ハ問屋事務ニ関スル回曆計算上ヨリ生セシ貸金ノ為ニ抵當上ノ権理ニ第百六條ノ義及ヒテ施スコトヲ得

ヘシ 問屋ハ前掲ノ権理ヲ施スコトノ代リニ周旋セル事務上ヨリ醸

生セシ貸金即チ依託人ヨリ他人ノヲ依託人及ヒ該債主ニ對シ其抵償トシテ先取ノ権アリ

第三百七十五條 依託人前條ニ於テ掲載シタル問屋ニ對シテ

尽スヘキ義務ヲ纏結スルニ際レ遷延セル時問屋ハ第三百十
条ノ成規ヲ遵奉セラ其周旋セシ物品ニ付テ抵償ノ權ヲ施ス
トヲ得ヘシ又此權理ヲ依託人一係ル他ノ債主及ヒ依託人ノ
倒産高ニ對シテ施ストヲ得ヘシ

第三百七十六條 相場会所ノ時價或ハ市場ノ時價アル債物為
換券及ヒ証券ヲ賣買スルトノ周旋ニ付テ依託人ヨリ別段ノ
契約ヲテヤル時ハ問屋其買入ル、物品ニ於テハ賣渡人ト為
テ之ヲ依託人一交付シ或ハ其賣却ヲ依託セラレシ物品ニ於
テハ買受人ト為テ之ヲ領收スル權アリ

此場合ニ於テ問屋賣買ヲ完結セハ計筭〔此計筭中ニ於テ物品
ノ價直共依託セラレシ事ヲ執行セシ時ノ相場会所ノ時價或
ハ市場ノ時價ヲ以テ計筭セシトノ明証ヲ具ヘサル可カラス
ヲ依託人、送致スルトヲ以テ義務ト為スミレ〇問屋ハ通常

ノ周旋料ニ付ル權アリ而シテ其他問屋事務上ヨリシテ生セ
シ法ニ悞ラズル雜費ヲモ亦要スルトヲ得ヘシ

問屋依託ヲ受ケレシ事ヲ執行スルニ就テ依託人ハ報知ヲ為ス
ニ際レ同時ニ他人ヲ買受人或ハ賣渡人ト為シテ其姓名ヲ通
知セサル時ハ依託人ニ於テ問屋ヲ買受人或ハ賣渡人トシテ
看做レテ其權理ヲ施ストヲ得ヘシ

第三百七十七條 若シ依託人其依託セシトヲ変更レ而シテ此
変更ノ報知問屋ニ問屋依託セラレシ事ヲ執行スルニ際レ依
託人一ノ報知ヲ遡送ニ付セサル以前ニ達スル時ハ問屋ニ於
テ買受人又ハ賣渡人ト為ル權ヲ得ス

第三百七十八條 商人其平常ノ商業問屋事務ニ付テ是ト雖モ
其ノ高價事務ヲ自己ノ名ヲ以テ依託人ノ為メニ結約スル時
ハ亦此章ノ成規ヲ準用スルトヲ得ヘシ

第四章

運輸ヲ世話スル事務ノ事

第三百七十九條 運輸世話人ハ平常自己ノ本職トシテ其名ヲ以テ他人ノ為ニ運輸人又ハ船主ニ委シテ荷物ヲ運輸スル

第三百八十條

運輸世話人ハ荷物ヲ領收レ或ハ保護スル際又

ハ運輸人船主或ハ^{間接}運輸世話人ヲ選拔スル際特ニ荷物ノ

運輸ヲ完結スル際ニ於テ真正ナル商人上ノ斡旋ヲ放棄スル

トヨリレテ醸生スル損害ヲ保任セサルヘカニス

運輸世話人ハ前掲ノ事項ニ於テ斡旋セレトテ徵スヘシ

第三百八十一條

運輸世話人ハ斡旋料ト拂金雜費或ハ運輸

スル為ニ使用シタルモノ、償還トテ要求スル権理アリ

百七十一條ノ
参考スル

運輸世話人ハ運輸人或ハ船主ト定約シタル運輸賃ヨリ高度

ニ運輸賃ヲ討算スルヲ得ス

第三百八十二條

運輸世話人ハ運輸賃斡旋料拂金雜費或ハ

取替金ノ為メ又ハ荷物ニ付テ運輸人ヘノ豫支ノ為メニ荷物

該人^ノヲ其所轄内ニ有スル以内或ハ之ヲ所置レ得ヘキ位置

ニ立ツ以内ハ一抵当上ノ権理ヲ施スヲ得ヘシ

第三百八十三條

運輸世話人ハ荷物所有主ノ債主及ヒ倒産負債高ニ對シテモ

亦此権ヲ施スヲ得ヘシ

運輸世話人其子務ヲ間接運輸世話人ニ委シテ并セシムル時

ハ即チ間接運輸世話人タルモノ前世人ヨリ自己ニ属スル権

理時ニ其抵当上ノ権理ヲ施スヲ得ヘシ

前世話人其荷主ニ係ル債付ヲ間接世話人ヲシテ償還セシメ

タル時前世話人ノ貸付及ヒ抵当工ノ権理ハ間接世話人一轉
移ス○運輸人若シ其荷主一係ル貸付ヲ間接運輸世話人ヲシ
テ償還セシメタル時ハ運輸人ノ貸付及ヒ抵当工ノ権理モ亦
前項同様タルレ

第三百八十三条 運輸世話人自己ノ為メニ運輸人或ハ船ヨリ
借受レタル運輸器械ヲ以テ運輸人或ハ船主ヲシテ運輸セ
ルルヲ斡旋スルモノハ通常ノ運輸賃ノ外斡旋料及ヒ其他
ノ雜費ヲ併セテ計算ニ立ツルヲ得ヘシ

第三百八十四条 運輸世話人若シ運輸費ヲ若干ノ額ニテ荷物
差立人或ハ荷領收人ヨリ擔當シタル時其委任スル間接運輸
世話人及ヒ運輸人ニ對シテ該費ヲ以テ保位スル限シ之ニ
及シタル契約アテサル以内ニ限ル○此場合ニ於テ若シ運輸
費ノ定額非ニ斡旋料ヲ需要シ得ヘキヲ契約シテアル時ノ

ニ唯運輸世話人斡旋料ヲ受クルノ権アリ

第三百八十五条 若シ別段ノ契約アテサル時ハ運輸世話人荷
荷物ノ運輸ヲモ亦自ラ執行スル権理アリ
運輸世話人若シ此権理ヲ施ス時ハ併セテ運輸人ノ権理及ヒ
支務ヲ有ス而シテ通常ノ運輸賃斡旋料及ヒ其他運輸世話人
事務工ヨリ生スル法ニ協フタル雜費ヲ計算ニ立ツルヲ得
ヘシ

第三百八十六条 荷物ノ減尺減少損敗及ヒ遲滞シテ送致セザ
ルヲ為メニ運輸世話人ニ對シテ為ス詞訟ハ一箇年ノ後期
満得免ス

此期限ハ荷物全没ノ為メニ係ル詞訟ニ於テハ若シ之ヲ送致
セハ到達シテアルヘシト假定シタル日ヲ經過セル後ヨリ起
算シ荷物ノ減少損敗及ヒ遲滞シテ送致セルヲ為メニ係ル

詞訟ニ於テハ荷物ノ送致終了レタル日ヲ經過セシ後ヨリ起
契スヘシ

荷物ノ減尽減少損敗及ヒ遅滞シテ送致セルノ為メニ抗抵
スル権理モ亦右事項ニ付テノ告知ヲ運輸世話人ハ一年以
内ニ為ササル時ハ消滅ス

運輸世話人ニ於テ詐偽或ハ不親実ノ所為アル場合ニ際シテ
ハ此条ノ成規ヲ準用スルヲ得ス

第三百八十七條 其他此章ニ於テ成規アラサル以内運輸世話
人ノ権理及ヒ後務ハ前章ノ成規ニ循テ判決スヘシ殊ニ第三
百六十五條ヨリ第三百六十七條迄ノ間屋ノ為メニ制定スル
アル成規ヲ運輸世話人ノ為メニモ亦準用スヘシ

第三百八十八條 商人ニレテ其本廳ノ商業素ト運輸世話事務
ニ非ルモノ若シ他人ノ為メニ自己ノ名ヲ以テ運輸人或ハ船

主ニ就テ荷物ノ運輸ヲ斡旋スルヲ擔任スルハ右事務ノ為メ
ニモ亦此章ノ成規ヲ準用スヘシ

第三百八十九條 唯荷物差シ立人ト運輸人或ハ船主トノ間ニ
ニ於テ為ス運輸契約ヲ媒合スル者即チ運輸媒合人荷物世話
人及ヒ船舶世話人ノ為メニ此章ノ成規ヲ準用スルヲ得ス

第五章

運輸事務ノ事

第一節

總テ運輸事務ノ事

第三百九十條 凡ソ己レノ本職トシテ荷物ヲ陸地、川或ハ湖上
ニ就テ運輸スルモノヲ運輸人ト云フ

第三百九十一條 運輸状ハ運輸人ト荷物差シ立人トノ間ノ
契約ニ付テ信憑ト為ルヲ得ヘシ

運輸人ハ運輸状ヲ交付スルヲ要シ得ヘシ

第三百九十二条 運輸状ニハ左ノ各款記載スヘシ

第一款 物品ノ性質数量及ヒ記号

第二款 運輸人ノ姓名及ヒ住所

第三款 荷物差立人ノ姓名

第四款 荷物ヲ送付スヘキ人ノ姓名

第五款 荷物ヲ送付スヘキ地方

第六款 運輸賃ニ付テノ約束

第七款 荷物差立人ト運輸方及ヒ日限

第八款 荷物差立人ト運輸人トノ間ニ成ル某ノ時以

内ニ運輸ヲ終了スヘキ期限及ヒ送致イ延期ヨリシテ醸生

スル損害ヲ賠償スルニ付テノ格段ナル契約

第三百九十三条 荷物差立人ハ其荷物若シ荷物領収人ト送

致スル前ニ付テ運上官或ハ租税官ノ処分ヲ經ヘキモノニ係

ラハ運輸人ト右ニ付テ必需ナル税関証書ヲ交付スルヲ以

テ義務ト為スハレ○荷物差立人ハ運輸人ニ對シテ税関証書

ノ不正ナル為メ又ハ之ヲ交付セサル為メヨリシテ醸生ナル

刑罰或ハ損害運輸人ノ所為ヨリシテ醸生セサル以内ハノ責

ニ任スヘシ

第三百九十四条 運輸人ノ運輸ヲ着手スヘキ時限ニ付テ運輸

契約ニ於テ別段定メタルトアラサル時ハ運輸ノ起程ヲナサ

サルヘカラサル日限ヲ其地方ノ習慣法ニ拠テ定ムヘシ若シ

該法ヲ欠ク時ハ其時ノ現状ニ適切ナル日限ヲ以テ起程ス

ヘシ

運輸ノ起程又ハ進行若シ天然ノ事故或ハ其他ノ事故ニ因テ

障礙セラル、時ハ荷物差立人其障礙ノ休止スルヲ待タスレ

テ契約ヲ解散スルイラ得然レ該障礙若シ運輸人ノ所為ヨリ
シテ發セサル以内ハ該人一對シテ起程ノ支度料荷物ヲ川床
ス雜費或ハ帰程ノ盤纏ヲ弁償セサルヘカラス「弁償ノ金額ハ
ソノ土地ノ習慣法ニ循レ或ハ該法ヲ欠ク時ハ法官ノ意見ニ
循テ判決ス可シ

第三百九十五條 運輸人ハ運輸品ヲ領收シテ之ヲ送了スル迄
ニ該品ノ滅盡或ハ損傷ニ因テ釀生スル損失ニ對シテ運輸人
ヨリ此滅盡或ハ損傷ハ抗抵ス可カラサルカニ因リ或ハ物品
固有ノ性質殊ニ内部ノ腐敗消滅及ヒ通常ノ破毀等ニ因リ又
ハ外面ヨリ認識シ得可カラザル該包中ノ不良品ニ因リテ釀
生シタル丁ラ徴セザル以内ハ其責ニ任ス可シ

第三百九十六條 前條ニ關列シタル事項ヨリシテ釀生セシ物
品ノ滅盡或ハ損傷ヲ運輸人ヨリ弁償セザル可カラザル時ハ
損失ノ計算ハ該物品賣買上ノ通貨ヲ因據トシテ算定ス可シ

物品ノ滅尽セル場合ニ於テハ其送致スル地方ニ於テ之ヲ送致シ来ル可キ時期ニ該品ト同種類及ヒ同性質ニ係ル物品ノ賣買上ノ通貨ヲ以テ弁償ス可シ而シテ物品ノ滅尽セルヨリシテ払フヲ要セザル運上及ヒ雜費等ヲ該價直ヨリ准除ス可シ

物品ノ損傷セル場合ニ於テハ損傷セシ物品ノ賣買上ノ價直ト該品若シ損傷セザルハ其送致スル地方及ヒ時ニ於テ有ス可キ賣買上ノ通貨トノ間タナル差額ヲ弁償ス可シ而シテ損傷マルヨリシテ払フヲ要セザル運上及ヒ雜費等ヲ准除ス可シ

若シ物品賣買上ノ價直アラザルモノニ係ラバ損失ノ計算ハ該品ノ通價ヲ因據トシテ算定ス可シ

若シ運輸人ハ不正ナル処為アルヲ徴セバ運輸人ハ損失ヲ

悉皆弁償セザル可カラズ

第三百九十七條 運輸人ハ契約上或ハ習慣上ノ送致日限ニ遷延セルヨリシテ釀生スル損害ニ對シテ該人ヨリ送致ヲ遷延セルトハ真正ナル商人上ノ斡旋ヲ用テスル所之ヲ回避シ能ハザルヲ徴セザル以内ハ保任ス可シ

第三百九十八條 送致ヲ遷延シタル場合ニ於テハ運輸價ヲ減少スルト或ハ之ヲ損失トスルト或ハ其他違約罰金ヲ徴スルトヲ契約シテアル時ハ縱令紛議生スル所該金額ノ外之ヲ超過シタル損失ニシテ遷延シタル送致上ヨリ釀生セル物ヲ弁償セシムルヲ要シ得可シ

第三百九十九條 運輸人ヨリ荷物ノ送致遷延セルトハ真正ナル商人上ノ斡旋ヲ用テスル所之ヲ回避シ能ハザルヲ徴スル時ハ遷延シタル送致ノ為メニ契約セシ運輸價ノ幾分或ハ

其金額ヲ損失トスル丁又ハ違約罰金ヲ徴スル丁ノ理由アラ
ズ然シ之ニ反シタル契約アル場合ニ於テハ此限ニ非ス

第四百條 運輸人ハ自己ノ擔當シタル運輸ヲ執行スルニ付テ
使用セシ仲間或ハ他人ノ為メニ保任ス可シ

第四百一條 運輸人若シ自己ノ擔當シタル運輸ヲ悉皆或ハ其
一部ヲ執行セシムル為メニ他ノ運輸人ハ荷物ヲ交付セル時
ハ右他ノ運輸人若シクハ其他運傳シタル運輸人ノ為メニ荷
物ノ送致ニ對シテ保任ス可シ

渾テ他ノ運輸人ニ代ル運輸人ハ荷物ト最初ノ運輸状トヲ領
収スル丁ヨリシテ該状ニ因據シテ運輸契約ヲ為シ且ツ前運
輸入ニ關セス該状ノ條款ニ循テ運輸ヲ執行スル義務ヲ負荷
ス而シテ前運輸人ノ既ニ執行シタル運輸ニ就テモ亦其義務
ヲ負荷ス

第四百二條 運輸人ハ荷物ヲ送致スル地方ニ該品到達セシ後
運輸状ヲ荷物領收人ニ附與セザル以内ハ荷物差立人ヨリ該

品ヲ引き戻ス丁或ハ運輸状ニ掲載シタル荷物領收人ニアラ
ザル他ノモノハ該品ヲ送致スル丁ニ付テ追テ發セシ指教各
ニ從ハザル可カラズ

運輸状ヲ該状ニ掲載シタル荷物領收人ニ既ニ交付シタル時
ハ運輸人唯該人ニ右指教各ヲ以テ示ス可シ若シ之ニ反セバ
該人ニ對シテ荷物ノ責ニ任ス可シ

第四百三條 運輸人ハ荷物ヲ送致スル地方ニ於テ運輸状中ニ
記載シテアル荷物領收人ニ該品ヲ交付スル可ヲ以テ義務ト
為ス可シ

第四百四條 運輸状ニ掲載シテアル荷物領收人ハ荷物ヲ送致
スル地方ニ該品ノ到達スル前ニ際シ運輸人ヲシテ渾テ該品

ヲ保嶮スル丁ニ就テ必要ナル規則ヲ奉行セシメ及ヒ此目的
ニ就テ需要スル指教各ヲ該人ニ附与スル權アリ而シテ荷物
ヲ送致スル地方ニ該品ノ到達スル前ト虽モ若シ運輸狀ニ掲
載シテアル荷物領收人ヨリ該品ヲ領收メント要セハ之ヲ兼
諾スルモ亦妨ケ無キ丁ヲ荷物差立人ヨリ運輸人ニ委任シテ
アル時ノミ只荷物領收人ヨリ之ヲ要スル權理アリ

第四百五條 荷物ヲ送致スル地方ニ運輸人ノ到達セル後運輸
狀ニ開列シテアル義務ヲ纏結セシムルニ就テ運輸契約上ヨ
リ得ル所ノ權理ヲ自己ノ名ヲ以テ運輸人ニ對シテ施行スル
丁ヲ得可シ此事ヲ荷物領收人自己ノ為メ或ハ他人ノ為メニ
施行スルモ其權理ニ於テハ差異アル丁無シ而シテ殊ニ運輸
狀及ヒ荷物ヲ交付スル丁ヲ荷物差立人ヨリ荷物領收人ニ對
シテ詞訟ヲ作ス前猶未タ第二二條ノ成規ニ於テ認許シテ

アル契約ニ及スル指教書ヲ運輸人ニ交付セザル以内ハ運輸
人ニ要求スル權理アリ

第四百六條 荷物領收人ハ荷物及ヒ運輸狀ヲ領收セシ後運輸
狀ノ定則ニ徇テ運輸人ニ拂ヒテ為ス丁ヲ以テ義務ノス方ニシ
第四百七條 若シ運輸狀ニ掲載シテアル荷物領收人荷物ヲ點
檢シ又ハ該品ヲ領收スル丁ヲ拒絕セル時或ハ該品ヲ領收ス
ル丁又ハ該品ノ現狀ニ付テ詞訟ヲ生スル時ハ此事ニ開涉ス
ル者該品ヲ該事ニ通曉セル者ニ委シテ鑑定セシム可シ

鑑定人所談事ニ通
曉セル者ハ此事ニ開涉スル者ノ請願ニ因リ商法
裁判所或ハ之ヲ欠ク時ハ地方裁判官ヨリ命ス
鑑定人ハ其意見ヲ公正ノ書面或ハ調書ニ為シテ通知ス可シ
裁判所ニ於テハ此事ニ開涉スル者ノ請願ニ因テ荷物ヲ公立
倉庫或ハ他人ニ寄託スル丁並ニ運輸人ノ運輸賃及ヒ其他ノ

貸金ノ為メニ該品ヲ悉皆或ハ此金額ニ相當スル以内ノ分ヲ
必賣ニ付スルヲ命シ得可シ

鑑定人ノ任擢ヲ請願シ或ハ荷物ヲ寄託シ及ヒ之ヲ賣却スル
為メニ裁判官ノ處分ヲ請願スルモノアラハ裁判官ニ於テハ
之ニ就テ其對頭該人現場ニ在ル以内ハニ尋問セサル可カラ
ス

第四百八條

荷物ヲ領收シ及ヒ運輸賃ヲ拂ヒシ後渾テ運輸人
ハ對スル權理ハ消滅ニ至ルモノナリ

唯荷物ヲ送致スルニ際シ外包上ヨリ發顯シ得可カラサル物
品ノ紛失或ハ損傷若シ此紛失或ハ損傷ヲ發見セシ後猶廢セ
ス亟カニ鑑定ヲテアル時及ヒ此紛失或ハ損傷運輸人ノ荷物
ヲ領收セシ以來之ヲ送致スル迄ノ時日ノ間タニ於テ釀成セ
シラ徵スル時ハニ付テハ荷物ヲ領收シ及ヒ運輸賃ヲ拂ヒ

シ後テト雖モ運輸人ハ對スル權理ヲ施行スルヲ得可シ

荷物ノ紛失損傷或ハ延滞シテ送致セルノ為メニ運輸人
人ハ對シテ作ス詞訟及ヒ拒絶ノ期滿得免ニ就テノ成規第百三

十六條ヲ參看ス可シ 運輸人ヲモ亦準用ス可シ

第四百九條

運輸人ハ都テ運輸契約上ヨリ釀生セシ貸金殊ニ
運輸賃及ヒ藏敷賃並ニ運上金及ヒ其他ノ拂ヒノ為メニ運輸

荷物ハ抵當上ノ權理ヲ施行スルヲ得可シ

荷物未ダ運輸人ノ手中ニ在リ或ハ他ノ寄託シテアル以内ハ

此抵當上ノ權理ヲ施行スルヲ得可シ又荷物ヲ送致セシ後

ナト雖モ運輸人送致セシ日ヨリ後テ三日内ニ於テ公訴ニ及

ヒ而シテ該品未ダ荷物領收人或ハ他人荷物領收人ニ代テ該

品ヲ領收スルモノノ許ニ現存スル以内ハ此權理未ダ消滅セ

サルモノナリ

運輸人ハ其抵償トシテ荷物ヲ悉皆或ハ其一部ヲ賣却スル權
理アリ第四百七條ヲ

運輸人ハ此權理ヲ荷物所有主一係ル債主及ヒ其倒産負債高
一對シテモ亦施行スルコトヲ得可シ

第四百十條 荷物若シ數個運輸人ノ手ヲ經テル時ハ最後ハ運
輸人荷物ヲ送致スルニ際シ運輸狀ニ於テ別段ノ契約アラザ

ル以内ハ前ノ運輸人ノ貸金ニシテ運輸狀ニ於テ掲載シテア
ルモノヲモ亦徴シ而シテ前ノ運輸人ノ權理特ニ抵當上ノ權
理ヲモ亦施行スルコトヲ得可シ

前ノ運輸人其貸付ヲ後ノ運輸人ヲシテ拂ハシメタルモノハ
之ニ其貸金及ヒ抵當上ノ權理ヲ附與スルモノナリ

運輸世話人ノ貸金及ヒ抵當上ノ權理モ亦右ニヒトシキテ法
ヲ以テ後ノ運輸世話人及ヒ運輸人ノ轉移ス

前ノ運輸人ノ抵當上ノ權理ハ後チノ運輸世話人ノ抵當上ノ
權理ト異ナルコト無シ

第四百十一條 若シ或ル荷物上ニ第三百七十四條第三百八十
二條及ヒ第四百九條ノ成規ニ因據シタル數人ノ抵當上ノ權

理施行シテアル時ハ之ガ荷物ノ運輸上ヨリ得シ抵當上ノ權
理ニ係ラバ後チニ之ヲ得シ者ハ前ニ之ヲ得シ者ヨリ先取リ

ノ權理アリ該抵當上ノ權理ハ都テ問屋ノ抵當上ノ權理及ヒ
運輸世話人ノ豫支ノ為メヨリシテ得ル抵當上ノ權理ヨリ先

取リノ權理アリ而シテ運輸世話人ノ抵當上ノ權理ハ前ニ之
ヲ得シ者ハ後チニ之ヲ得シ者ヨリ先取リノ權理アリ

第四百十二條 若シ運輸人拂ヒテ領收セシテ荷物領收人ハ
荷物ヲ交付シ及ヒ之ヲ交付セシ後チ三日以内ニ抵當上ノ權

理ヲ法律上ニ循テ施サバ爾時ハ該人並ヒ前ノ運輸人及ヒ

七
載
省

運輸世話人ヨリ其前ノモノ一對スル關係ハ損失トナル可シ
○但シ荷物領收人一對スル權理ハ猶消滅セズ

第四百十三條 運輸人ヨリ荷物差立人一運輸受状ヲ交付スル
丁ヲ荷物差立人ト運輸人トノ間タニ於テ契約スル丁ヲ得可
シ

運輸受状ハ運輸人ヨリ荷物ヲ送致スル義務ヲ負荷スル丁ヲ
徴スル証書ナリ

第四百十四條 運輸受状ニハ左ノ條款ヲ開列ス可シ

第一款 運輸ス可キ物品ノ性質數量及ヒ記号

第二款 運輸人ノ姓名及ヒ住居

第三款 荷物差立人ノ姓名

第四款 荷物ヲ交付ス可キ人ノ姓名或ハ荷物ヲ交付ス可キ
命令ヲ為ス人ノ姓名○運輸受状若シ命令ニ係ル時ハ荷

物差立人ヲ命令人トシテ看做ス

第五款 荷物ヲ送致ス可キ地方ノ名

第六款 運輸賃ニ就テノ定則

第七款 荷物ヲ差立ル地方ノ名

運輸受状ハ運輸人ヨリ其姓名ヲ手署セザル可カラズ

荷物差立人ハ運輸人ヨリ其姓名ヲ手署シタル運輸受状ノ繕

本ヲ運輸人ノ請求ニ因テ之ハ交付ス可シ

第四百十五條 運輸人ト荷物領收人トノ間タノ權理ノ關係ニ

就テハ運輸受状ニ依據シテ斷定ス可シ該状ニ記列セザル運

輸契約ノ定則ハ荷物領收人一對シテ法律上ニ効無シ但シ該

法律上ニ於テ之ニ關シ受理ス可キ明文無キ時ニ限ル

運輸人ト荷物差立人トノ間タノ權理上ノ關係ニ就テハ運輸

契約ノ定則ヲ準用ス可シ

第四百十六條 若シ運輸人ヨリ運輸受状ヲ荷物差立人一交付
シテアラバ運輸人ハ唯荷物差立人ヨリ之ニ該状ヲ返付セル
時ノミ該人ヨリ荷物ヲ引戻スルノ為メ或ハ運輸受状ニ姓名
ヲ掲載シテアラザル者ハ荷物ヲ送致スルルノ為メ追テ發
セシ指教書ニ從ハザル可カラズ○運輸人此成規ニ乖戻スル
時ハ荷物ノ為メニ運輸受状ノ法律上ノ所有主ニ對シテ保任
ス可シ

第四百十七條 運輸受状ニ循テ荷物ヲ交付セラル可キモノ或
ハ該状若シ命令体ニ係ラバ裏書ニ因テ該状ノ交付セラレテ
アル者ハ荷物ヲ領收スルルノ法ニ協フタルモノトス
第四百十八條 運輸人荷物ヲ交付スルニ就テハ荷物ヲ交付ス
ルルヲ徴シタル運輸受状ヲ返付セラル、トニ對シテノミ唯
其義務ヲ尽ス可シ

第四百十九條 其他ノ事ニ就テハ運輸人ノ權理及ヒ義務ニ付
テノ成規若シ運輸受状ヲ交付シテアル場合ニ於テハヲ準用
ス可シ

第四百二十條 通常ノ商業ヲ經紀シテ荷物運輸ノ事務ニ與
セサル商人若シ一二ノ場合ニ於テ荷物ヲ陸地河中或ハ湖上
ニ就テ運輸スル時ハ此事務ノ為メニモ亦此章ノ成規ヲ準用
ス可シ

第四百二十一條 鐵道及ヒ其他公通ノ運輸設立所ノ運輸事務
ニモ亦此節ノ成規ヲ準用ス可シ
然シ驛遞局ノ運輸事務ニ就テハ該局ノ為メニ特別ノ法律或
ハ章程ニ因テ別段定メタルアラザル以内ノミ唯此節ノ成
規ヲ準用ス可シ
鐵道ニ就テハ右ノ他次節ノ成規ヲ準用ス可シ

第二節

鐵道運輸事務ノ事

第四百二十二條 公眾ニ對シテ荷物ヲ運輸スル需用ニ供スル
為メニ開設シタル鐵道ハ其道線ニ向テ依頼シ來ル運輸事務
ヲ左ノ場合ニ於テハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第一款 物品ノ其外包シタルト否トヲ問ハス鐵道營業法ニ
循ル或ハ該法中ニ欠典シテアル場合ニ於テハ鐵道規則又

ハ鐵道運轉方法ニ循テ運輸スルコトニ適當シテアル時

第二款 荷物差立人タルモノ運輸賃荷物ヲ送致スルコト及ヒ
其他鐵道ノミニ管テ為シタル運輸契約ニ付テ普通ニ適
用スル鐵道事務順序ヲ遵奉スル時

第三款 鐵道ニ屬スル規則上ノ運輸方法ヲ運輸ヲ施行スル
ニ際シテ遵奉スル時

鐵道ニ於テハ荷物ヲ運輸スル為メニ該品ヲ起運ヲ為シ得可
キ時ヨリ前ニ領收スル義務ヲ負荷セス

荷物差立人タルモノハ何人ニ限ラズ鐵道ノ規則或ハ鐵道ノ
關係或ハ公益ヨリシテ生スル事由有ラスシテ他人ヨリ前ニ
起運時限ヲ獨占スルコトヲ得ズ

此條ノ成規ヲ乖戾シテ起シタルモノハ之ヨリシテ發生セ
ル損害ノ弁償ヲ負荷セザル可カラズ

第四百二十三條 第四百二十二條ニ於テ掲載シタル鐵道ハ第

三百九十五條 第三百九十六條 第三百九十七條 第四百條 第

四百一十條及ヒ第四百八條ニ於テ掲載シタル損害ヲ賠償スル為

メニ運輸人ノ義務ニ付テノ成規ヲ準用スルコトヲ鐵道ノ利益

ヲ為メニ契約鐵道營業法ニ因據シテ或ハ特別ノ契約ニ因リ

テニ因リテ豫先ニ禁止シ或ハ制限スルニ依令其事義務ノ初起

限域及ヒ未了中ニ関スル氏或ハ證ヲ取ラサル丁ニ関スル氏
權理アテス但シ次條ニ於テ之ヲ認許シテアル以内ハ此限リ
ニアラズ

此成規ニ乖戾シテアル契約ノ定則ハ法律上ノ効アリス

第四百二十四條 契約上ニ左ノ事項ヲ豫期スル丁ヲ得可シ

第一款 荷物差立人ト契約ノ上蓋々ノ無キ車ヲ以テ運輸ス

ル物品ノ為メニ此運輸上ニ管係シタル災害ヨリ醸生スル

損失ニ對シテ保任セザル事

第二款 物品ノ性質運輸上ヨリ生スル紛失或ハ損傷ヲ保護

スル為メニ外包ヲ要スル。拘ハラズ運輸状中ニ於テ荷物

差立人ノ指教ニ従テ外包セズ或ハ不充分ノ外包ヲ施シタ

ル丁ヲ掲載シテアルモノ、為メニ外包ヲ又ク丁或ハ外包

ノ不充分ナル性質上ニ管係シタル災害ヨリ醸生スル損失

ニ對シテ保任セザル事

第三款 荷物差立人ト契約ノ上荷積ニ或ハ荷卸シニ就テ管

理スル丁ヲ委任セラレタル物品ノ為メニ荷積ニ或ハ荷卸

シ又ハ不充備ノ荷積ニニ管係シタル災害ヨリ醸生スル損

失ニ對シテ保任セザル事

第四款 物品ニ固有スル自然ノ性質ヨリシテ其全部或ハ幾

分ノ滅盡又ハ損傷即チ破碎鏽蝕内部ノ損敗及ヒ外部ノ破

裂等ノ災害ヲ起ス物品ノ為メニ此災害上ヨリ醸生スル

損失ニ對シテ保任セザル事

第五款 生活アル動物ノ為メニ該物ヲ運輸スルニ際シ之ニ

関係スル災害ヨリ醸生スル損失ニ對シテ保任セザル事

第六款 附キ添ヒ人ノアル物品ノ為メニ附キ添フ丁ニ因テ

防禦シ得可キ災害ヨリ醸生スル損失ニ對シテ保任セザル

事

此條ノ成規ノ一ヲ契約シテア_ラバ其他ノ損失〔若シ此損失擔當セザル災害ヨリ醸生シ得可キ時ハ〕擔任セザル災害ヨリ醸生シタル事ヲ證スル迄ハ抗抵シ得可キ_トヲ契約シタルモノトシテ看做ス

此條ニ循テ契約シタル保証ヲ解放スル_ト雖モ若シ鐵道管理人又ハ其社中ノモノ、過失ヨリシテ損失ヲ醸生セシ_トラ徵スル時ハ其責ヲ免ル_トヲ得可カラズ

第四百二十五條 行李ニ就テ左ノ事項ヲ契約スル_トヲ得可シ
第一款 運輸ニ付セザル行李ノ紛失或ハ損傷ニ付テ若シ鐵道管理人又ハ其社中ノ者ノ過失ニ因テ之ヲ醸生セル_トヲ徵セバ然ル時ノミ唯之ニ對シテ保証スル事○右ノ事ハ行李中ノ物品ニ付テモ亦豫期スル_トヲ得可シ

第二款 運輸ニ付セシ行李ノ紛失ニ付テ若シ該品ヲ其交付セシ期日ノ後テ三日以内ニ於テ要求セバ然ル時ノミ唯之ニ對シテ保証スル事

此期日ハ三日ヨリ短縮スル_トヲ得可カラズ

第四百二十六條 物品ノ自然ノ性質ニ因テ運輸中ニ於テ其重量又ハ容量ヲ減少スル物品ノ為メニ重量又ハ減少ヲ預メ見積リタル定度以内ハ保証セザル_トヲ豫約スル_トヲ得可シ○數箇ノ物件ヲ同時ニ運輸スル場合ニ際シ若シ各箇ノ重量又ハ容量ヲ運輸狀ニ於テ掲載シ或ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ明確ニシテアル時ハ各箇物件ノ減少見積リ定度ヲ算定セザル可カラズ

若シ右減少其場合ノ現狀ニ因リ荷物ノ自然ノ性質ヨリシテ醸生セズ或ハ見積リタル定度該品ノ性質又ハ其場合ノ現況

ニ適セザルヲ證スル時ハ此條ノ成規ヲ適施スルヲ得ズ
第四百二十七條 鐵道ニ於テハ左ノ事ヲ契約スルヲ得可シ
第一款 第三百九十六條ノ成規ニ循テ損失ヲ辨償スル計算
ノ根據ト為シタル實價ハ運輸狀若シクハ運輸受狀若シク
ハ行李證書ニ於テ物品ノ實價トシテ記載シタル額或ハ此
額ヲ記載スルヲ欠ク時ハ預メ見積リタル定度ヲ超過セ
サル事

第二款 第三百九十七條ノ成規ニ循テ荷物ヲ遲滞シテ送致
セルトヨリシテ釀生セシ損失ヲ辨償スル額ハ運輸狀若シ
クハ運輸受狀若シクハ行李證書中契約期限内ニ送致スル
ニ於テハ得可キ利益ノ額トシテ記載シタル金額或ハ該額
ヲ記載スルヲ欠ク時ハ運輸物品悉皆スハ其一部ノ紛失
ノ為ニモ亦預メ見積リタル定度ヲ超過セザル事

鐵道管理人或ハ其社中ノモノ、不正ナル處ゲアル場合ニ於
テハ物品ニ付テ見積リタル定度或ハ證書上ニ記載シテアル
該品ノ實價ニ對シテ保証スル限制ヲ適施スルヲ得可カラ
ス

第四百二十八條 荷物ヲ領收シ及ヒ運輸賃ヲ拂ヒシ後ニ於
テ荷物ノ紛失ニ就テ或ハ該品ノ損傷ニ就テ縱令此事荷物ヲ
交付スル際ニ於テ認メズシテ他日ニ及ヒ始テ發顯スルモ
百八條ノ第二款ノ權理ハ若シ之ヲ荷物ヲ領收セル後定期
ヲ參看ス可シ
内ニ於テ鐵道管理人ハ通知セザル時ハ消滅スルモノナリ
此期日ハ四周間ヨリ短縮スルコトヲ得可カラス

第四百二十九條 鐵道若シ運輸狀ニ因據シテ荷物ヲ領收シ而
シテ相連接シタル數多ノ鐵道ヲ經テ運輸スルニ渾テ一ノ運
輸狀ニ因據シテ之ヲ執行スル時ハ荷物ヲ運輸狀ニ因據シテ

七
載
省

領收スル各鐵道ハ第四百一條ノ成規ニ循テ運輸人ノ如ク運輸ノ結了ニ對シテ保任ス可ク但シ荷物ヲ運輸狀ニ因據シテ領收シタル最初ト最後トノ鐵道ニ於テノミ唯運輸ノ結了ニ對シテ保任シ主トシテ其責ニ任スル所ヲ究結スル丁ハ各鐵道互相ノ間ニ讓ル之ニ及シテ其餘ノ中間ニ在ル鐵道ハ荷物損害若シ該鐵道ニ於テ釀生セシ丁ヲ徵セラレシ時ノミ唯運輸人ノ如ク其責ニ任スル事ヲ豫期スル丁ヲ得可シ

第四百三十條 鐵道若シ運輸狀ニ因據シテ荷物ヲ領收シ而シテ該狀ニ於テ該鐵道或ハ其連接シタル鐵道ノ邊ニ在ル場所ヲ荷物ヲ送致スル所トシテ記載シテ了ラザル時ハ一ノ鐵道或ハ數多ノ鐵道運輸人ノ如ク荷物ヲ送致スル地方マデ運輸ノ結了ニ對シテ保任マス但シ其運輸鐵道ノカヲ籍ル丁ヲ終ル所マデ運輸ニ對シテ其責ニ任シ而シテ此^レ中ヲ豫期シテ了ル時ハ其他尙ホ遠ク送致スル丁ヲバ運輸世話人ノ義務ト為ス可シ

第四百三十一條 荷物差立人ヨリ荷物ヲ鐵道ノ邊ニ在ル場所ニ於テ引キ渡シ或ハ預ケ置ク可キ丁ヲ運輸狀中ニ確定シテ了ル時ハ荷物ヲ送致スル所トシテ定メテ了ル他ノ地方運輸狀中ニ於テ記載シテ了ル之ニ拘ハラズ鐵道ニ於テハ唯其邊ニ在ル右場所マデ運輸ヲ擔任シ而シテ唯該所ニ於テ荷物ヲ交付スル責ニ任スル丁ヲ以テ至當トス

補律

第一

一千八百六十七年十一月十四日公布契約上ノ利息銀ニ就テノ

聯邦法律

上帝ノ恩惠ニ因テ普魯士國等ノ王タル朕維廉北獨逸聯邦ノ名
ヲ以テ聯邦議會及ニ國會ノ決議ニ據テ今茲ニ在ノ法ヲ公布ス
ルモノナリ

第一條 利息銀ノ額並ニ貸附及ニ信託上ノ貸金ト其他貸附及ニ

信託上ニ係ル貸金ノ償還ヲ延滞セル為メニ拂フ所ノ懲罰

金トノ額及ヒ方法ハ自由ニ契約スルコトヲ得可シ

之ニ反シタル民法上及ニ刑法上ノ成規ハ廢止ス

第二條 債主ノ其貸附ノ為メニ一箇年百分ノ六ヨリ高度ナ

ル利息銀額ヲ認許シテアルモノハ半箇年限リ更新ノ契約ニ就

テ適施スルヲ得可シ○然レモ此權理ハ契約ヲ結ブ時ニ際
シ直チニ適施スルヲ得ス但シ半箇年ヲ經過シタル後チニ
於テ始メテ之ヲ適施スルヲ得可シ

此成規ヲ負債主ノ損失ニ為ル可ク制限シ或ハ廢止スル契約
上ノ定則ハ法ニ適セザルモノトス

渾テ法律上ノ成規ニ循テ無記名券ニ製シタル國債證券並ニ
商人ノ借受セシ貸附及ヒ商人ノ其商業上ヨリ醸生セシ負債

ニハ此條ニ於テ掲載シタル成規ヲ準用スルヲ得ス
第三條 貸附或ハ他ノ信任上ニ係ル貸金ノ償還ヲ延滞スル時

ニ際シ其豫メ契約シタル息銀法律上ノ延滞息銀ヨリ高度ナ
ル以内ニ延滞セル為メニ別段ニ之ニ増加スルヲ得可カラ
ス

第四條 息銀就テノ息銀ニ係ル民法上ノ成規及ヒ職業上抵

當貸附所ノ定則ハ此法律ノ為ニ扞格スルヲ得ス

第五條 此法律ノ第二條ニ於テ負債主ニ認許シタル契約更新

ノ權理ヲ盡ク廢止シ或ハ右權理ヲ百分ノ六分ヨリ高度ナル
息銀額又ハ六箇月ヨリ悠久ナル期限ニ適當スルヤ否ヲ制定

スルヲ各邦ノ法律ニ讓ル可シ
各邦法律中ニ於テ右ニ掲載シタル負債主ノ契約更新ノ權理

ヲ廢止シ或ハ右ノ方法ヲ以テ制限スル成規ヲ設ケテマラバ
右成規其國ノ憲法上ヨリ或ハ聯邦法律上ヨリ變換ヲ受ル迄

ハ法ニ協ヲタルモノトス
右朕ノ名署及ヒ聯邦印章ノ連署ヲ以テ證スルベナリ

一千八百六十七年十一月十四日

伯靈府ニ於テ

維廉

王璽

「ヒスマルクセユンハウス」候

名 署

第二

一千八百七十年六月十一日公布株券發行委任會社及株券會社ニ就テノ聯邦法律

上帝ノ恩惠ニ因テ普魯士國等ノ王タル朕維廉北獨逸聯邦ノ名ヲ以テ聯邦議會及國會ノ決議ニ據テ今茲ニ左ノ法ヲ公布スルモノナリ

第一條 獨逸國普通商法ノ第五條第百七十三ヨリ第百七十六迄ノ四條第百七十八第百九十八第百九十九第二百〇四條第二百〇六ヨリ第二百十二迄ノ七條第二百十四第二百十五第二百十七第二百二十二第二百二十五第二百三十九第二百四十二ノ七條及ヒ第二百四十七ヨリ第二百四十九迄ノ三條ノ補則ハ右條款ノ後ニ於テ同号ノ條款ヲ附ス

第二條 株券發行委任會社或ハ株券會社ヲ設立スルニ付テ政府ノ認許或ハ政府ヨリ該社ノ監督ヲ為スルヲ制定シタル各邦ノ法律ハ廢止ス

既ニ設立シテアル株券發行委任會社及ヒ株券會社ニ付テモ亦政府ノ認許及ヒ監督ニ關涉シタル會社契約ノ定則ハ消除ス可シ

第三條 興業ノ事物ニ因リ政府ノ認許ヲ要シ及ヒ興業ニ因リ政府ノ監督ニ屬シタル各邦ノ法律ハ第二條ノ成規ト扞格スルヲマラス

右ノ成規ハ既ニ設立シテアル株券發行委任會社及ヒ株券會社ニ係ル其興業ノ事物ヨリシテ政府ノ認許及ヒ監督ヲ受テ或ハ特別ノ權理ヲ會社ニ附與シタル會社契約ノ定則ニモ亦準用ス可シ

第四條 既ニ設立シテアル株券發行委任會社及ヒ株券會社ニ

歳首

シテ從來ノ成規ニ循テ商業簡明簿ニ登録セサルモノハ左
ノ既往ノ事件ニ係ル成規ヲ履行セシム可シ

第一款 右ニ掲載シタル會社ニモ亦獨逸國普通商法中ノ商

業簡明簿ニ登録スル丁及ヒ商標並ヒニ名署ヲ商法裁判所

ニ於テ書記シ或ハ其書記セシモノヲ該裁判所ニ差シ出ス

丁ニ就テノ成規ヲ通シ用ユ可シ

商業簡明簿ニ登録スル為メノ上稟及ヒ商標並ヒニ名署ヲ

書記シ或ハ其書記シタルモノヲ差シ出ス丁ハ此法律ヲ公

布セシ日ヨリ起算シテ三箇月以内ニ舉行ス可シ○此期限

ヲ經過シタル後ハ此事ニ関係スル者ヲシテ此法律ヲ履行

セシムル為メニ罰金ヲ科ス

第二款 會社ヨリ商業簡明簿ニ登録スル為メノ上稟ヲ右ノ

期限内ニ於テ舉行スル時ハ獨逸國普通商法ノ第十七條第

十八條第三十條第二十一條ノ第二款及ヒ第百六十八條ノ

成規ヲ奉行スル丁ヲ要セズ

第三款 法ニ適シテ設立シタル會社ハ縦令此法律ニ循テ

會社ヲ設立スルニ付テ需要スル成規ヲ舉行シテアテサル

凡亦商業簡明簿ニ登録スル丁ヲ為ス可シ

第四款 株券發行委任會社ノ責任社員或ハ株券會社ノ支配

人ノ會社ヲ代理スル權ヲ制限シタル時ハ此法律ヲ公布

セシ日ヨリ起算シテ三箇月ヲ經過スル迄ハ獨逸國普通商

法ノ第百十六條及ヒ第二百三十一條ノ成規ヲ準用スル丁

ヲ要セズ○若シ右制限ノ事ヲ第一款ニ於テ掲載シタル三

箇月ノ期限ノ内ニ商業簡明簿ニ登録スル為メノ上稟ヲ為

シテアル時ハ此法律ヲ公布セシ日ヨリ起算シテ五箇年ノ

間ハ猶右商法ノ成規ヲ準用スル丁ヲ要セズ

第五款 此法律ニ據テ確定シタル新文ニ係ル獨逸國普通商
法ノ第百九十九條ノ成規ハ旧文ニ係ル第百九十九條ヲ公
布セシ時ニ於テ設立シテアル株券發行委任會社ニシテ會
社ノ契約ニ於テ又ハ之ヲ改定シタル契定ニ於テ責任社員
ノ一名乃至數名ノ分離ヲ以テ會社ヲ解散セザルヲ確定
シタルモノニモ亦準用ス可シ

右朕ノ名署及ニ聯邦印章ノ連署ヲ以テ證スルモノナリ

一千八百七十年六月十一日

伯靈府ニ於テ

維廉

王璽

「ロスマルク」セエンハウス侯

名署

第三

一千八百六十九年六月十二日公布上等商法裁判所ヲ設置ス

ルニ就テノ聯邦法律

上帝ノ恩惠ニ因テ普魯士國等ノ王クル朕維廉北獨逸聯邦ノ名
ヲ以テ聯邦議會及ニ國會ノ決議ニ據テ今茲ニ左ノ法律ヲ公布
スル者ナリ

第一條 商法事務ノ為メニ北獨逸聯邦中各政府ノ通共トシテ

上等商法裁判所ヲ設置シ總テ聯邦ノ疆域内ニ其所轄ニ歸ス

而シテ之ヲ聯邦上等裁判所ト名ク

第二條 聯邦上等商法裁判所ニ稟責ニ於テ設置シ長官一名副

長官一名乃至數名及ニ其他商議ニ必需ナル人貢ヲ置ク

第三條 聯邦上等商法裁判所ノ法官ハ聯邦議會ノ上申ニ因リ

聯邦頭領ヨリ授任ス

第四條 秘書官ハ聯邦頭領ノ名ヲ以テ聯邦宰相ヨリ授任シ其

他必需ナル屬吏ハ聯邦上等商法裁判所ノ長官ヨリ授任ス

第五條 聯邦上等商法裁判所ニ於テ必需ナル費用ハ聯邦金庫
ヨリ支給ス ○特ニ聯邦上等商法裁判所ニ屬スル官吏ノ給料
ハ聯邦官吏ノ如ク聯邦金庫ヨリ支給ス

第六條 聯邦上等商法裁判所ノ法官ハ何人ヲ論マス其從屬マ
ル所ノ聯邦中ニ係ル政府ノ法律ニ循テ其政府ノ上等裁判所
ノ法官ニ授任セラレ得キ能力ヲ具ハタル明法者或ハ獨逸
國ノ大學校ニ於テ法律學課ノ上等教師タル地位ニ立チタル
明法者ヲノミ唯授任マル丁ヲ得可シ

第七條 聯邦上等商法裁判所ニ於テ商議ヲ決スルニハ長官ヲ
加ヘテ少クトモ七名ノ人負ヲ要ス ○商議ヲ決スルニ際シ判
決ノ投票ヲ為ス人負ノ數ハ何レノ場合ニ於テモ整一ナル丁
ヲ要マス ○事務ヲ商論スルニ際シ一班ヲ占ル人負ノ數ハ整
一ナル丁ヲ要ス故ニ聯邦上等商法裁判所ノ議官中最後ニ之

ニ授任セラレシモノ或ハ同勤年數ノモノアラバ其レニ就テ
年齢ノ若キモノニ唯商議ノ投票ヲ為ス可シ

第八條 聯邦上等商法裁判所ハ聯邦議會ノ決議ニ因據レテ若
干ノ元老議官ヲ置ク丁ヲ得可シ

元老議官ハ長官ヨリ授任シ其年限ヲ一箇年トス ○此年限中
元老議官ノ事故アル時之ガ代理タル可キモノヲ長官ヨリ公
聞シ置ク可シ

元老議官ハ渾テ合シテ之ヲ聯邦上等商法裁判所法官ノ一部
外ト為ス

裁判所長官或ハ副長官或ハ若シ該官事故アル時ハ聯邦上等
商法裁判所ノ議官中ニ就テ最モ長キ勤年數ノモノ或ハ同勤
年ノモノアラバ其レニ就テ年齢ノ老ニタルモノヲ元老議官
ノ長ト為ス

第九條 法律ノ疑問ニ付テ元老議官中一員ノ意見若シ該員又
他ノ元老議官中一員乃至總負ノ前説ニ及スル時ハ事件ヲ
裁決スル前ニ該法律ノ疑問ヲ總負へ下付セザル可カラス○
總負ノ動議ヲ起セシ最後ノ意見ハ事件ヲ裁決スルニ適當シ
タルモノトス

第十條 北獨逸聯邦ノ各政府ニ於テ渾テ裁判ニ對シテノ詞訟
ニ付テ委任セラレテアル檢事ハ聯邦上等商法裁判所ノ裁判
覆審ノ申渡シニ係ル処ハ第十七條及第十七條ヲ參看ス可シテ該
裁判所地方ニ於テ該分局ノ裁判ニ對シテノ詞訟ヲ為ス權理
アリ

喚起ニ應スル為ノニ原被両告トモ聯邦上等商法裁判所ノ地
方ニ住居スルモノヲ以テ委員ト為シ置ク可シ○若シ両告ト
モ之ヲ漫過シテアル時ハ命令書ヲ驛遞ニ附シテ喚起ス可シ

二
二

第十一條 聯邦上等商法裁判所ノ事務取扱ヒ方法ハ事務章程
ニ開載ス可シ此事務章程ハ上等裁判所ノ事務章程ニ因據シ
テ調劑シテ聯邦議會へ出シテ認許ヲ請フタルモノ也
又事務章程中ニ特ニ長官ノ權限ヲ確定シ而シテ此法律ニ於
テ掲載シテアル場合ノ外尚ホ總議官ニ付シテ商議セシムル
事件ヲ掲載ス可シ

第十二條 聯邦上等商法裁判所ハ商賣事務ニ付テ該件ノ初審
ヲ經シ地方ニ於テ其邦ノ法律ニ循テ設立シテアル上等裁判
所ノ位置ニ立テ保マテ其邦ノ法律上ヨリシテ上等裁判所へ
屬スル權理ヲ有ス

聯邦上等商法裁判所ノ管轄ハ法律上ヨリ覆審ノ申渡シ書ヲ
送致スル丁ニ因リテ限制セラレ、丁アラズ

第十三條 此法律ノ旨趣ニ於テ商賣事件ト為スモノハ之ノ事

此ヨリシテ商人獨逸國普通商法ノ第四章ヲ參看ス可シ
ニ對シテ上訴ノ上權理ヲ伸フルコトヲ要求スル所ノ人民中ニ生スル權理上ノ調訟ヲ云フ

第一款 商賣事務獨逸國普通商法ノ第二百七十一條ヨリ第
二百七十六條迄ヲ參看ス可シ

第二款 獨逸國為換法ノ旨趣ニ協フタル為換ノ事件
第三款 左ニ掲載シタル權理上ノ管係

イ 商社社員中ノ暗黙社員ト主業者トノ間又ハ一個商賣事
務或商賣上ノ工業獨逸國普通商法ノ第十條ヲ參看ス可
シヲ共同シタル組合ノ間ニ生スル權理上ノ管係其ヒニ
解社決算人或ハ商社支配人ト會社或ハ其社員トノ間ニ
生スル權理上ノ管係事務ノ管係中或ハ其纏結セル後ト
ニ拘ハラス

ロ 商標ヲ用ユルニ就テノ權理上ノ管係

ハ 彼此契約人ノ間ニ成立シタル商賣事務ヲ變更スルコトニ
就テ生スル權理上ノ管係

ニ 總任主管專任主管或ハ管店ト商舖ノ主人トノ間ニ生ス
ル權理上ノ管係並ヒニ他人ニ對シ商賣事務止ヨリシテ
總任主管或ハ專任主管ノ位置ニ立ツモノノ獨逸國普通商
法ノ第五十五條ヲ參看ス可シト他人トノ間ニ生スル權
理上ノ管係

ホ 獨逸國普通商法ノ旨趣ニ循ヒテ商業世話人ニ委任スル
事務ヨリシテ該人ト契約人トノ間ニ生スル權理上ノ管
係

ヘ 海上法ノ上特ニ荷積ニスルコトニ主契約上ノ船主若シク
ハ船長ノ權理及ヒ義務ノ上船舶ヲ抵當スルコト及ヒ船載

ノ貨物ノ上、船舶ノ撞突セル場合ニ際シ之ヲ弁償スル
ノ上、海上ニ於テ欠乏セル需用ヲ假貸シ及ヒ補給スル
ノ上、並ニ船舶ノ債主ニ屬スル權理ノ上ニ管涉セルモノ
ヨリ生スル權理上ノ管係

第一款ヨリ第三款迄ニ掲載シタル人民中權理上ノ詞訟ノ外
ニ各州ノ法律ニ循テ商法裁判所ノ初審ヲ受ケシ争訟アル時
ハ之モ亦此法律ニ於テハ商賣事件トシテ看做ス

第十四條 商賣事件或ハ他ノ事件ニ付テ附従ノ訴訟ニ續テ裁
判官ノ意見ヲ以テ審判ス可キモノ生スル時ハ商賣事件ノ金
額高度ナル時、唯上等商法裁判所ノ管轄タル可シ

若シ同一事件ノ争訟ニ於テ訴訟ヲ以テ纏結ス可キモノ有ル
ニ際シ之ヲ拒スル訴訟ヲ為セシニ續テ商賣事件或ハ他ノ
事件ノ審判ヲ要スルモノ生スル時ハ右ノ成規ヲ通シ用ユ可

第十五條 聯邦上等商法裁判所ノ管轄内ニ屬スル争訟中保管
或ハ強償ノ申渡シアルニ續テ原被告外ノ者ヨリ抗拒ヲ為
セシニ際シ此抗拒ヨリ生セシ争訟ニ對シテ聯邦上等商法裁
判所ハ此争訟若シ第十三條ノ成規ニ循テ全部或ハ一部該裁
判所ノ管轄ニ屬シタル時ノミ唯其管轄ノ權ヲ施シ得可シ
強償ノ處分ニ於テ原告或ハ被告ヨリ為セシ抗拒ノ為メニモ
亦此抗拒ニ續テ生セシ争訟若シ第十三條ノ成規ニ循テ全部
或ハ一部聯邦上等商法裁判所ノ管轄ニ屬シタル時ノミ唯該
裁判所ノ管轄タル可シ

第十六條 聯邦上等商法裁判所ノ管轄内ニ屬スル争訟事件ニ
於テハ争訟ノ所刑モ亦該事件ヲ該裁判所ニ送付セシ地ニ於
テ施行シテアル争訟法此法律中ニ於テ別段ノ成規アルナル

以內ニハ 循テ該裁判所ヨリ 判決スルモノナリ
他ノ地方ニ於テ受理セシ 争訟其争理セシ地方ノ成規ニ循テ
處分スル丁ノ成規ト 扞格セズ

第十七條 某土地ニ於テ施行シテアル 争訟法ニ循テ上等裁判
所ヨリ判決ス可キ 覆審ラ之ニ從属シタル裁判所ニ於テ申渡
シテ為ス地方ニ於テハ 聯邦上等商法裁判所ノ管轄内ニ屬ス
ル事件ニ就テモ亦該所分テ施行ス ○該所分ニ於テハ 覆審ヲ
結了シタル申渡シ書ヲ 聯邦上等商法裁判所ニ送致ス可シ
聯邦上等商法裁判所或ハ各州ノ上等裁判所ニ書面ヲ送致ス
ル覆審ノ申渡シヲ為シタル裁判所ノ決議ハ 覆審ヲ受ルル丁
ラズ

第十八條 上等裁判所ヨリ其地方ニ於テ判決スル為メニ制定
シタル 争訟法ニ循テ覆審ノ申渡シヲ為ス丁マデテ若シ商賣
事件ニアラザル也ノ 事件發生マシ時ハ此申渡シハ 聯邦上等
商法裁判所ノ管轄ニ屬シタル事件ニ於テモ亦 聯邦上等商法
裁判所ヨリ執行スル丁ヲ得ズ然シ該件ヲ管轄シタル上等裁
判所ヨリ之ニ於テ管轄内ニ屬シタル裁判ヲ為ス知テ同一ノ
方法ヲ以テ執行ス

断結ノ申渡シヲマシ後之ヲ執行シタル裁判所ニ於テハ若
シ之ガ 聯邦上等商法裁判所ノ管轄ニ屬スルト思考スル時ハ
之ニ其書面ヲ送附ス可シ ○所決スル為メニ制定シタル 争訟
法ニ循テ覆審ノ判決ニ就テ口頭ノ申渡シヲ為ス丁アル時ハ
此口頭ノ申渡シヲハ 聯邦上等商法裁判所ヨリ施行ス可シ ○
來因河傍ノ 争訟ニ循テ知分シタル事件ニ於テハ其書面ニ大
檢事ノ意見書ヲ添ヘテ 破毀ノ回答ヲ連レシ後或ハ該事ノ到
達スベキ 期日經過セシ後ニ 聯邦上等商法裁判所ニ送致ス可

第十九條 漢那耳ノ争訟法ニ循テ所シタル事件ニ於テハ第
十七條及ニ第十八條ノ成規ヲ準用ス可カラズ○破毀ヲ要ス
ル訴訟ハ漢那耳ノ争訟法第四百三十五條ノ成規ニ循テ其日
内ニ直テニ聯邦上等商法裁判所ニ差出ス可シ○談訟若シ
談裁判所或ハ各州上等裁判所ニ差出レ及ニ申渡シ期限ヲ遷延
シテアルニ際ニ聯邦上等商法裁判所ニ於テ其管轄内ニ非ス
トスル時ハ各面ヲ各州上等裁判所ニ差出シ或ハ各州上等裁
判所ニ於テ其管轄内ニ非ストスル時ハ各面ヲ聯邦上等商法
裁判所ニ差出ス可シ○原被告ニ於テハ各面ヲ差出マレ裁
判所ニ就テ申渡シノ期日ヲ遷延スルヲ得可シ○従来
取扱ヒレ争訟特ニ覆審ヲ期限内ニ為ス成規ハ右掲載ノ場合
ニ於テモ亦同規ニ仍ル可シ

第二十條 處テスル為メニ制定セシ争訟法ニ循テ申渡レラ為
スニ際シ檢事ノ立会ヲ要スル時ハ聯邦上等商法裁判所ニ長
ヨリ授任セラル談所ノ官吏ヲ以テ代理ト為ス可シ
第二十一條 各州上等裁判所ヨリ其管轄ニ属スル指會マレ或
ハ其管轄ニ非スト聯邦上等商法裁判所ノ管轄タルモノハ指
會マレ決議ハ抗拒スルヲ得ズ而レテ他ノ裁判所ハ此限リ
ニアラズ
第二十二條 聯邦上等商法裁判所ニ差出セシ事件ニ付テ裁判
費ノ計算ヲ為シ並ニ檢事及ニ參事ノ給料計算ヲ為スニハ
裁判費及ニ給料計算定則ニ依テ其事件各州上等裁判所ニ關ス
ル凡ニ循テ計算ス可シ○他方ノ換事及ニ參事ノ聯邦上等商
法裁判所ニ在地方ニ旅行マレ雜費 被告ノ償還セシモノ
ヲテズ○聯邦上等商法裁判所ニ於テハ印紙及ニ印紙稅ヲ要

然レ事件若シ各州上等裁判所ニ関涉スル時ハ該所ニ於テ成ル所ノ纏結ヲ申渡シ決議及ニ審判ヲ俟セテニ對シテ各州ノ法律ニ循テ使用ス可キ印紙ノ金額ハ裁判所給料ノ如ク計算ス可ク而レテ之ヲ裁判費ニ加入ス可シ○右ノ成規ハ聯邦上等高法裁判所ニ差出マ原被両者ノ歎願各ニモ亦通用ス可シ

聯邦上等高法裁判所ノ為メニ計算ス可キ雜費ハ聯邦金庫ニ納付ス可シ○事件ヲ起先ニ其管轄内ニ非ル裁判所ニ於テ受理シ續テ其管轄裁判所ニ引渡スルノ知分ニ對シテハ裁判雜費ヲ計算スルコトヲ要セズ

第二十三條 聯邦上等高法裁判所ノ官員ハ終身官トス聯邦上等高法裁判所ノ官員若シ該人其管轄ヲ受ル所ノ聯邦政府所在裁判所ノ審判ニ因テ刑法上ヨリ放職名譽ヲ毀損ス

ル刑一箇年以上ノ名譽ヲ毀損セサル禁獄刑或ハ名譽ヲ毀損スル輕重罪ヲ犯シタルニ就テノ刑罰ニ實決セシレシ時ハ其官職及ヒ其俸給ヲ褫奪スルコトヲ得可シ

右ニ掲載シタル事項ノ一ニ処分セラレシ場合ニ於テ該官職及ヒ其俸給ヲ褫奪スルコトヲ得可シ

第二十四條 聯邦上等高法裁判所ノ官員審問ヲ受ル時ハ聯邦上等高法裁判所ヨリ衆議一決ノ上審問ノ間ハ該官ノ停職ヲ申渡シ得可シ

若シ犯者審問中禁獄ヲ命マラル、時ハ法律上ヨリ停職セラル

停職ノ為メニ停職中總テ俸給ヲ受ル權ヲ失フコトアラズ

第二十五條 聯邦上等高法裁判所ノ官員若シ身体ノ虧損又ハ或ハ精神ノ衰弱ニ因テ常ニ其官職上ノ義務ヲ尽コズル

五、ハザル時ハ之ニ安息ヲ命ゼテ安息祿ヲ支給ス
年々ノ安息祿ハ奉仕年数滿十箇年迄ハ俸給ノ六十分ノ二十
ヲ給ス而シテ其次ノ奉仕年ヲ周了スル毎ニ増加シ五十年ノ
奉仕年數ヲ周了スル迄ハ六十分ノ一宛ヲ増加ス
官員ノ奉仕年度ヲ計算スルニハ該官以前北獨逸聯邦ノ官職
某ノ聯邦政府ノ官職或ハ某ノ聯邦政府ニ屬スル區ノ官職ヲ
奉シ又ハ某ノ聯邦政府ニ於テ檢事或ハ錄事或ハ私領地法官
ト為リ又ハ獨逸國ノ大法院ニ於テ法律博士ト為リタル年月
ヲ加算ス可シ
官員法律上ノ請願登テ用テセズ氏之ニ安息ヲ命一ハ或規ヲ
執行スル時ハ聯邦上等商法裁判所ノ學識ヲ以テ該官ハ安息
ヲ命スルコトヲ得可シ
此処分ヲ為シニハ普魯士王國ノ一千八百五十一年五月七日

ニ公布セシ管吏ヲ本人ノ請願ニ向テズレテ他方ニ遷謫シ或
ハ安息ヲ命スルノ刑ニ管スル法律ノ第五十六條ヨリ第六十
三條迄ノ成規ヲ遵奉ス可シ○政府ノ檢事及ヒ審判官ノ処分
ニ付テハ監察ハ聯邦上等商法裁判所ノ長官ヨリ行ハレタ
ル該所ノ官吏ノ任タル可シ

右附録

一千八百五十一年五月七日ニ公布セシ法官職務上ノ過
失及ヒ該官ヲ其請願ニ由ラズレテ他官ニ遷謫シ或ハ之
ニ安息ヲ命スルノ刑ニ管シタル普魯士王國法律ノ鈔録
第五十六條 盲目再聲其他身体上ノ虧缺或ハ身体上ノ精
神上ノ衰弱ノ為ニ常ニ職務上ノ義務ヲ完了スル能ハガ
ル法官ハ安息ヲ命シ得可シ
第五十七條 法官右ニ掲載シタル場合ニ於テ其安息ヲ請願セ

ル時ハ次條ニ於テ指載シタル處分ヲ施行ス可シ
第五十八條 法官或ハ已ニ得ガレ場合ニ於テハ持別ニ置
レテマシ該官ノ代理人ハ裁判所ニ於テ其同僚中ノ上席人
ヨリ該官ノ安息ヲ可キ場合ニ及ビテアルノ原由ヲ記載
シテ之ニ諭示ス可シ

右安息ヲ命スルニ初審裁判所管轄内ニ屬スル各法官ヲハ
其長官或ハ監督官ヨリ初審裁判所ノ長官或ハ監督官ヲハ
覆審裁判所ノ長官ヨリ覆審裁判所ノ長官^官ハ上等裁判所ノ
長官ヨリ之ヲ執行ス

第五十九條 前條ニ於テ指載シテアル諭示ハ職^官ニヨリシ
テ所轄長官ノ意見ニ因リ或ハ檢事ヲ申立ニ因テ為ス可シ
右ノ諭示^兼兼セザル時ハ其上等ニ列スル裁判所或ハ若シ
之ヲ覆審裁判所ノ長官或ハ上等裁判所ノ法官ニ於テ為シ

タル時ハ該所ニ於テ其平負集會ノ上其職掌上ヨリシテ又
ハ檢事ノ申立ニ因テ諭示スルノ適否ヲ論決ス可シ而シ
テ此場合ニ於テハ諭示ヲ領兼セザル可カ^ル
上等裁判所ノ長官ニ諭示スルニハ唯該官ノ法律^ノノ代理
人總裁ニテ為シタル該所ノ決議ニ因據シテ執行ス可シ
第六十條 法官或ハ其代理人第五十八條或ハ第五十九條ノ
成規ニ循テ執行シタル諭示ヲ受ケレ日ヨリ六月間以内ニ
其安息ヲ自己ヨリ請願セス而シテ該人ヨリ抗^拒拒^否差出
シタルニ際シテハ若シ之ヲ上等裁判所ノ法官或ハ覆審裁
判所ノ長官ニ於テ為シタル時^ハ若シ第五十九條ノ成規ニ
循テ上等裁判所ノ決議ヲ行フテアル時ハ該所其他ノ場合
ニハ覆審裁判所ニ於テ之ニ就テ異議ノ上裁許ニ附^ス可キ
ヤ否ノ決定ヲ為ス可シ

第二十一條 右決断シタル案件ハ裁判所ニ上呈シ之ニ就テ
衆議ノ上候事ノ傍聴ヲ以テ安息ヲ命ス可ヤ否ヤノ決定
ヲ為シ可シ

裁判所ニ於テハ以決定ヲ為ス前ニ保証人及ヒ事理ニ通曉
セル者ヲ其中立ノ真確ヲ徵スル為メニ該所ニ喚起ス可シ
○裁判所ニ於テハ連累ノ法官ヲ何時ナリハ出頭セシム且
ツ之ニ自身出頭スルノ他候事ヲ以テ代理ト為 得ルカラ
サルコトヲ豫期スルノ權理アリ

第六十三條 決議案ハ覆審ニ附スルコトヲ得ス○若シ決議案
ニ安息ヲ命スルコトヲ掲載シテアル時ハ司法眼ニ呈シ而
シテ該眼ハ猶之ニ就テ意見ヲ下ス可シ
第二十六條 第二十三條及ヒ第二十五條ニ於テ掲載シタル聯
邦上等商法裁判所ノ審判及ヒ決議ハ覆審ニ因テ翻案セラル

・コアラズ

第二十七條 以法律ノ實施期日ハ聯邦頭領ノ布告ヲ以テ定ム
可シ○此期日迄ニ各州上等裁判所ニ於テ既ニ取扱フタル事
件ハ聯邦上等商法裁判所ノ管轄ニ屬セズ○各州上等裁判所
ハ覆審或ハ審判ヲ乞フ為メニ訴状ヲ差出スルニ決定シタル
事件モ亦該所ニ於テ既ニ取扱フタルモノトシテ看做ス可シ
一 朕ノ名署及ヒ聯邦印章ヲ以テ證スルモノナリ
一千八百六十九年六月十二日

伯靈府ニ於テ

維廉

玉璽

コスマルクセシハウス候

名署

第四

鉄道及ヒ鑛山等ノ營業ニ於テ發生シタル死傷ニ對シテ償金ヲ

為ニ... 閣スル一千八百七十一年六月七日ノ國法
上帝ノ恩惠ニ因テ獨逸國皇帝兼普魯士國等ノ正タル朕ヲ獨
逸國ノ各ヲ以テ聯邦議會及ヒ國會ノ決議ニ據テ今茲ニ左ノ法
ヲ布告スルモノナリ

第一條 若シ鐵道ノ營業ニ際シテ人ノ死傷スルノ時興業
者ヨリ此災害抗拒ス可カラサルノ力或ハ該死者又ハ傷者自
己ノ失錯ヨリ發生セシメテ證セザル以内ハ此ヨリ釀スル
損失ニ對シテ保任ス可シ

第二條 何人ヲ論セズ米鑛采石鑿リ割リ或ハ製作ヲ經營スル
モノハ若シ其委員代理人經營或ハ動作ノ指揮スル者等
ヲタル者其事務執行上ノ失錯ヨリシテ人ノ死傷或ハ人体ノ
毀傷ヲ致ス時ハ此ヨリ釀生スル損失ニ對シテ保任ス可シ

第三條 損失ノ辨償第一條及ヒ第二條ヲ參看ス可シハ即チ左

ノ件ニ於テ可シ

第一款 殞歿マレ場合ニ於テハ其施用マシ治療及ヒ埋葬ノ
費並ヒニ該人病中利益ヲ得ル能力ヲ失レ或ハ該能力ノ減
少セレヨリ生スル財產損失ノ并償○殞歿人其遺文ノ則ニ
違法律上ヨリ他人ノ衣食料ヲ支給スル義務ヲ負荷シテ有
リシ時ハ殞歿ノ際之ニ払ハサル該料ノ額ニ過フ以内ノ并
償ヲ該人ヨリ請求スルコトヲ得可シ

第二款 人体ヲ毀傷セシ場合ニ於テハ治療費及ヒ被傷人毀
傷ノ愈ル迄一時或ハ終始利益ヲ得ル能力ヲ失レ或ハ該能
力ヲ減少セシヨシ生ヤレ財產損失ノ并償

第四條 興業人ヨリ被傷人或ハ被傷人ノ不慮ニ備フル為メ之
ニ防後金或ハ其他ノ救助金ヲ補給シ之ヲ保險会社職一金庫
或ハ日金庫養濟金庫或ハ右類ノ金庫ニ寄託シテアリ而シテ

其項并償金ノ三分一ヲ下ニサシ時ハ前頭金庫ヨリ要償者ニ對シテ并償ス可シ

第五條 第一條及七條ニ於テ拘載シテアル興業人ハ第一條ヨリ第三條迄ノ成規ヲ自己ノ便宜ノ為メニ條約(大抵社規或ハ特別ノ契約ヲ以テ)ヲ以テ豫先ニ遵奉スルヲ廢シ或ハ之ニ限制ヲ立フルヲ許サズ

此成規ニ反シタル條約ハ更ニ法律上ノ効アラズ

第六條 裁判官ニ於テハ總テ原被對決ノ論弁ヲ通察シテ其陳述ノ信認ス可キモノニ就テ判決ス可シ

誓ヒテ以テ證スルト並ヒニ文唇及テ裁判官ノ信認ニ証據カ

ヲ具ヘルトニ就テ各邦ノ法律ハ固ヨリ可シ

一方ノ對頭ニ其陳述ノ信認ス可キ或ハ信認ス可カラサル者

ニ就テ誓ヒテ為サレ並ヒニ損害額ニ就テ証立ヲ出サシム

或ハ事案ニ通曉セシ者ノ意見ヲ聽受ス可キカ否ハ裁判官ノ意見ニ附ス

第七條 裁判官タルモノハ損失ノ額ハ其事情ト違ハスルトニ

就テ並ヒニ如何ノ所置及ヒ幾許ノ金額ヲ以テ保給スルコト

ルモノトシ認ルカ否ヤニ付テ自己ノ意見ヲ以テ判決スルト

ヲ得可シ○若シ衣食料及ヒ工業利益金ヲ自由ニ領收スルト

ヲ承諾セシテアル時ハ將來ノ衣食料及ヒ工業利益并償

トシテ通常石金額ノ利子ヲ交付ス

利子ヲ領收シ及ヒ該額ヲ約定セル所ノ例規若シ歲月ヲ經過

スル間其原則ヲ變更スル時ハ義務ヲ負荷スル者按スルニ即

ハ何時ハリ氏利子ヲ拂ハサル可或ハ之ヲ減少スルトヲ要シ

得可シ○被傷人ニ亦期滿得免期限内第八條ヲ參看スルニ

於テ其并償上ノ權理ヲ施シ而シテ若シ利子ヲ領受スルト

ガ以スル丁或ハ拂ハザルノ為メニ設ケル例規其原則ヲ
變更スル時ハ何時ナリハ利子ヲ増額シ或ハ復ニ領收セリ
ヲ要シ得可シ

又歲月ヲ經過スル間ニ於テ若シ義務ヲ負荷スル者ノ家産振
ハザル景況アル時ハ權理アル者按スルニ即ヨリ追テ保險ヲ
為ス丁或ハ其金額ヲ増加スル丁ヲ要シ得可シ

第八條 弁償第一條ヨリ第三條迄ヲ參看ス可シノ滯止ハ災

害ノ生ヤシ日ヨリ起算シテ二箇年ヲ以テ期滿得免ノ期ト為
ス○殞歿人ヨリ衣食料ヲ支給シテアリシ者第三條ノ第一款
ヲ參看ス可シニ對シテノ期滿得免ハ其殞歿ニシテ起算
ス可シ○幼者及々之ト等シキモノトモテ認メニレタル者ニ
對シテノ期滿得免モ亦右ノ期限ニ同シ但シ此ニ於テハ破毀
ヲ乞フ訴ヲ為シ得可シ

第九條 此法律ニ於テ列挙シタル場合ノ外第一條及々第二條

ニ掲載シタル事業ノ興起人或ハ他ノ者其營業ノ際自己ノ過
失ヲ以テ人ヲ殞歿ニ致シ或ハ之ヲ毀傷セルヨリシテ醸生セ
シ損失ニ對シテ保任スル各州ノ法律ハ旧ニ何レトモ
第三條第四條及々第六ヨリ第八迄ノ三條ノ成規ヲ右ノ場合
ニ準用スルモ亦可ナリ但シ損害ヲ被リタル者ニ高額ノ弁償
ヲ要シ得可キ權理ヲ附與シタル各州ノ法律ト扞牾セリ無
シ

第十條 一千八百六十九年七月十二日公布商法上等裁判所設

立ニ關スル法律及 該補律ノ成規ハ此法律或ハ第九條ニ於
テ記載シタル各州法律ノ成規ニ因據シテ訴訟或ハ抗訴ヲ以
テ權理ヲ伸ル民法上ノ詞訟ニ施ス丁ヲ得可シ
右ノ署名及々皇帝ノ玉璽ニ以テ徵スルモノナリ

一千八百七十一年六月七日

伯靈府ニ於テ

維康

「ロスマル」公

玉璽

名署

第五

一千八百七十一年六月八日公布賞金附キ無記名債券ニ関スル法律

上帝ノ恩惠ニ因テ獨逸國ノ皇帝兼普魯士國等ノ王タル朕維康獨逸國ノ名ヲ以テ聯邦議會及ヒ國會ノ決議ニ因據シテ今茲ニ左ノ法ヲ公布スルモノナリ

第一條 無記名債券ニレテ總テ債主或ハ該一部ニ其レヨリ假貸セシ金額ヲ拂フ外ニ賞金ヲ拂フ但シ抽籤或ハ他ノ方法ニ因テ賞金ニシテ拂フ債主及ヒ中籤マレ賞金ノ額ヲ定ムモノ即チ

賞金附キ無記名債券ハ唯國法ニ因據シ及ヒ唯聯邦政府或ハ大政府ノ起債ノ目的ヨリシテ獨逸國內ニ発行スルコトヲ得可シ

第二條 此法律ノ公布以後第一條ノ成規ニ準テ國內ニ發行シテアル賞金附キ無記名債券ニ一千八百七十一年四月三十日以後外國ニ發行シテアル該券ハ流通スルコトヲ禁シ且ツ相場会社或ハ其他諸証券ヲ交換スル為メニ設ケタル會社ニ於テ營業或ハ營業ヲ補助スルノ物体ト為スコトヲ得可カラス

第三條 右ノ成規ハ一千八百七十一年五月一日以前ニ發行セシ外國ノ賞金附キ無記名債券ニレテ捺印第四條及ヒ第五條ヲ參看ス可シヤガルモノニモ亦一千八百七十一年七月十五

日以來ノ準用ス可シ

一、本印ヲ為ス可キ債券ハ、
一、千八百七十一年七月十五日
迄ニ差出シテ之ヲ請フ可シ

檢印稅 一個債券ニ付テ其券面高一百「タリレル」凡ソ我ニ金貨
七拾圓以下ニ係ルモノハ五「シルベルグ」ロイセン「凡ソ我ニ金貨
拾錢五厘強」乃至十七「クロイチエル」半「凡ソ我ニ金貨八錢強」一百
「タリレル」以上ニ係ルモノハ十「シルベルグ」ロイセン「凡ソ我ニ金
貳拾三錢強」乃至三十「クロイチエル」凡ソ我ニ金貨拾六「五厘
強」ヲ徵ス可シ

右檢印稅ノ徵收マレモノハ大政府ノ金庫ニ納ム可シ

第五條 聯邦議會ハ此法律ヲ施行スルニ付テ必要ナル條規ヲ
定ムルヲ委任ス且ツ此條規中ニ於テ債券ノ發行權ナル所有
主ニシテ寬宥ス可キ事故ニ因リ債券ノ差シ出シ方遲滯ニ及
ビシ者ニ追テ該券ノ檢印ヲ請願シ得ベキ事ヲ定ム可シ○其

他聯邦議會ハ檢印稅ヲ計算スル為メニ他國ノ金貨ヲ「タリレ
ル」ノ價位ニ定メ並ニ檢印ヲ請願スル為メニ債券ヲ差シ出
ス可キ第四條ヲ參看ス可シ「官署ヲ定ム可シ」

第六條 何人ヲ問ハズ第一條、第二條、及ヒ第三條ノ成規ニ違反
セシモノハ其違反シテ營業セシ物体タル債券ノ券面額五分

ノ一ニ當ル罰金或ハ少ナク尺一百「タリレル」ノ罰金ヲ課ス
何人ヲ問ハズ第二條及ヒ第三條ニ於テ記載シタル券面額五分
債券ヲ發行シ若シクハ賣却セルト要シ若シクハ譲リ渡シ若
シクハ時價ノ相當ヲ定ムルモノハ一百「タリレル」以内ノ罰金
或ハ三箇月以内ノ禁獄ヲ課ス

右朕ノ名者及ヒ皇帝ノ玉璽ヲ以テ徵スルモノナリ
一千八百七十一年六月八日

白蠟府ニ於テ

ハナク

維摩

ヒスマルソ公

玉璽

名署

獨逸國並山高法補律

